

九州共立大学

スポーツ学部

2023 年度

カリキュラムマップ

# スポーツ学科 専門教育科目

(2018~2022 年度)

<p>学是 (学則第1条の2)</p>				<p>本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。</p>				
<p>スポーツ学部の人材養成及び 教育研究上の目的等 (学則第3条の4)</p>				<p>スポーツ学部及びスポーツ学科は、学是「自律処行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする。併せて、自己理解の基に、他者との協調性、寛容性、社会性、コミュニケーション能力を育み、リーダーシップの取れる人材養成を目的とする。</p>				
<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー：DP)</p>				<p>スポーツ学科は、総合的な教養、スポーツ分野での多様な専門知識を身につけ、幅広い教養かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目指す。この基本理念のもとに、以下を満たした学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p><b>【知識・技能】</b> 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b> 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。</p> <p><b>【主体性・協働性・倫理性】</b> 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。</p>				
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー：CP)</p>				<p>スポーツ学科は、大学の教育課程編成・実施の方針(CP)に掲げる目標を達成するために、総合共通科目、専攻教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。</p> <p><b>【教育内容】</b> 1. キャリア教育科目を含めた総合共通科目、専門教育科目、自由選択科目を配置し、アスリートマネジメントコース、スポーツ教育コース、スポーツトレーナーコース、スポーツ政策コースの4コースで構成し、スポーツに関する専門的知識、技能を身につけるよう、系統的に科目を配置する。 2. 専門教育科目は、「共通科目」「専攻コース科目」「専門演習科目」「スポーツ実技科目」で区分し、基礎的内容から応用・発展的内容まで、知識と技能を修得し、さらに両者を実践的に学修できる科目を配置する。スポーツに関わる理論知・実践知を身につけ、学年を重ねるにつれてそれらを応用する能力を高められるよう、必修科目と選択科目を段階的に配置する。 3. さらに専門演習科目は、3年次より少人数クラスで展開され、4年次に卒業研究に取り組む。これらの科目を通して、国内外において活かせる「協調性」、「社会性」、「リーダーシップ」、「コミュニケーション能力」、「礼節とマナー」、「指導者能力」、「課題探求能力」、「課題解決能力」を育む。</p> <p><b>【教育方法】</b> 1. 主体的な学びの力を高めるためにアクティブラーニングを取り入れた教育方法を実施する。 2. 演習・実験・実習においてはグループ学修を取り入れ、協調性を身につけるとともに、自己および他者の課題を発見し、解決する力を育成する。 3. 卒業研究は、身につけた知識・技能・論理的思考力・分析力を活用し、主体的に研究を行い、成果が実を結ぶように個別指導を実施する。</p> <p><b>【教育評価】</b> 1. 各授業は、シラバスに基づいた到達目標に対応した評価方法を導入し、厳格な成績評価によって単位を付与する。 2. 4年間の学修成果は、卒業研究(必修)によって行い、総合的に評価する。</p>				
<p>スポーツ学部のカリキュラム</p>				<p>卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係【◎特に関係する ○関係する】</p>				
科目区分	授業科目名	配当年次	開講学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 学士(スポーツ学)として相応しい幅広い教養を身につけ、総合的なスポーツ指導・健康づくりの学問体系の基礎を理解し、専門知識と技能を身につけている。	【思考力・判断力・表現力】 実社会で必要となる教養、および専門分野の知識・技能を用いて、職業人として適切な企画・計画力、的確な判断力を有し、それらを実践できる力を身につけている。また、礼節を重んじ高い力量をもつスポーツ指導者の素養を身につけ、地域社会の中で率先して行動できる力を身につけている。	【主体性・協働性・倫理性】 専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者として、高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、地域や社会の一員として、自ら進んで他者との協働を通じ、積極的にボランティア活動等を実践し、社会貢献できる力を身につけている。 ※「倫理性」は2023年度以降の入学生より適用
共通科目	スポーツ医学	2年生	前	スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ医学の知識は、捻挫、打撲、骨折、脱臼、靭帯損傷などの整形外科的疾患、呼吸循環器系疾患、感染症など多岐に渡る。本科目ではこれら分野に関する概要を説明すると共に、スポーツ現場で求められるスポーツ指導者としての適切な対応について学習する。	①スポーツ指導者が知っておくべきスポーツ外傷・障害について説明することができる。 ②スポーツ指導者が知っておくべきスポーツに関連した内科的疾患について説明することができる。 ③スポーツ活動に関連して発生するスポーツ外傷・障害や内科的疾患に対する適切な対応を説明することができる。	◎	○	○
共通科目	スポーツ栄養学	2年生	後	健康を保持・増進し、疾病を予防あるいは治療する上で運動とともに食事の果たす役割は非常に大きい。本授業は栄養学の基礎知識を修得した後、スポーツ活動時の栄養補給・食事計画など実践的な知識を修得することを目標とする。運動時の水分補給に適した飲料、サプリメント等については、実物例を挙げながら授業を行う。	健康を保つための栄養補給を理解して実践できる。 科学的根拠に基づき、競技特性やトレーニングスケジュールに適した栄養補給を実践できる。 水分補給について正しい知識を得て、実践できる。	◎	○	○
共通科目	体力トレーニング論	3年生	前	本講義では、体力の向上を目指したトレーニングの基礎的知識について学ぶ。また、目的や状況に合わせたトレーニング処方について学び、自身に適したトレーニング内容を考える。さらに、発育発達・加齢による身体機能の変化に合わせたトレーニング処方についても学ぶ。	体力の要素を分類してトレーニングを考えることができる。 各種トレーニングの特徴や身体への適応について説明することができる。 目的に合わせた運動処方方法について説明することができる。 年代の違いによるトレーニング方法や効果の違いを説明することができる。	◎	○	○

共通科目	発育発達老化論	3年生	後	この科目では、ヒトの発育発達および老化について、運動・スポーツ・健康に特化して扱います。そのため、ヒトの発育および発達に関する知識を取得し、自分自身だけではなく、多様な事例の発育発達について説明するような授業方法を実施します。	・ヒトの発育発達・老化の過程について基本的な事項を理解できる。 ・ヒトの発育発達・老化について、自分なりの問題関心を説明できるようになる。	◎	○	○
共通科目	スポーツの歴史と文化	4年生	後	現代社会における様々なスポーツ現象の課題・問題点を日本及び海外のスポーツの歴史と文化を知ることによって正しく導き出しこれらの課題解決の方法を模索できるようにすることを授業の目的とする。そのため、授業では、まず、近代スポーツの起源とその成立過程を知る。次に近代オリンピック、プロフェッショナルスポーツ、スポーツ用品産業、学校体育、スポーツ政策などの領域における歴史と特徴を学ぶ。	①体育・スポーツの文化的価値とは何かについて説明できる ②体育・スポーツの歴史と文化を具体的に説明できる ③体育・スポーツの歴史と文化に関する課題を見つけることができる ④現代スポーツにおける課題の解決策を考えることができる	◎	○	○
共通科目	スポーツ統計学	3年生	前	統計学は小学校の算数以来、身近なところにある学問領域のひとつである。発育発達や公衆衛生等、単なる現象の認識だけでなく統計学を土台として現象理解を求められる分野は多い。競技やトレーニングにおいて、日々の結果(の集合体)がどのような特性を持っているのかを理解する上でも統計学を身につけておくことは大切となってくる。本講義では小・中・高で学んだ統計学を基にして、スポーツにおける統計がどのような意味をもたらすのかを理解し、それを活用できるようになることを目的とする。	1)スポーツ・体育で取り扱うデータの統計処理ができる。 2)目的に応じた統計グラフの選定ができる。 3)Excelを利用して統計解析ができる。 4)統計データの有意性を判断できる。	◎	○	
共通科目	レクリエーション論	4年生	前	「レクリエーションとは何か」という問いを起点に、レクリエーションの概念およびその現代における意義と課題について理解を図る。自分の人生においてどのようにレクリエーションと関わっていくかというライフサイクルプランの作成や、レクリエーション教室を企画・報告するなどの実習を交えつつ、「行なう」と「支える」の両面の立場から、レクリエーション活動の意味について説明する。	①レクリエーションが現代社会において、そして自分たちにとってどのような意味を持つのかを説明できる。 ②自分がこれからの人生でどのようにレクリエーション活動を行っていくのかを考え、現場に応じてレクリエーション活動を計画することができる。 ③レクリエーション支援者の立場と役割について理解し、自身が支援者となった場合の姿勢や心構えを述べることができる。	◎	○	○
共通科目	救急法実習	2年生	前・後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。救急法の中でも特にスポーツ現場において発生する様々な医学的問題に焦点を当て、その対処法を学ぶ。具体的には外傷の処置としてのアイシングや固定法、創の種類やそれらの対処法、救命処置として心肺蘇生法とAEDの使用方法などについて実習する。また、スポーツ現場で見られる内科的疾患の救急処置などについての講義も行う。(医師による授業回がある。)	スポーツ現場において発生する様々な医学的問題に対して適切に評価、判断、処置を行い医療者に引き継ぐことができる。	◎	○	○
共通科目	テーピング実習	3年生	後	スポーツ現場で多用されているテーピングの有効性について解説し、実際にテーピングの実習を行うことで、テーピング「する側」「される側」の両者について体感を得られるような授業を展開する。	・テーピングを実施する上で必要な知識について説明できる。 ・テーピングを使用する目的に合わせて、効果的なテーピング方法を選択し、正確な技術をもって巻くことができる。	◎	○	○
共通科目	運動生理学実験	3年生	前	効率的な体力の向上を目指すには生体からの正確な情報収集が不可欠である。本実習では健康生活に必要な体力、およびスポーツ活動を実施する上で特に必要と思われる体力の測定技法を修得することを目的とする。また実験方法に関する留意点についても学ぶ。	・測定の方法や注意点を学び、正確な測定を行うことができる。 ・各種生理的データを測定することの意義が説明できる。 ・各種生理的データの測定により体力レベルの評価ができる。 ・実験で得られたデータを処理し、レポートにまとめることができる。	○	◎	○
共通科目	スポーツ動作解析法	3年生	前	身体運動における熟練や練習成果を客観的に分析することがスポーツ指導では重要である。本実習ではスポーツ動作の撮影を行い、身体各部の座標化を行ったのち、「動き」を定量化して、自らが設定したテーマに関する比較結果に関する発表を行うことができるようにする。	平面的な運動を対象とした二次元動作解析の原理を理解できる。ビデオでは重要である。本実習ではスポーツ動作の撮影を行い、身体各部の座標化を行ったのち、「動き」を定量化して、自らが設定したテーマに関する比較結果に関する発表を行うことができるようにする。		◎	
共通科目	スポーツクラブのマネジメント	3年生	後	国のスポーツ政策として総合型地域スポーツクラブが謳われており、特に「マネジメント」が重視されている。スポーツクラブの政策はこれまでも進められていたが、マネジメントの概念がなかったこともあり、地域においてスポーツクラブが定着しているとは言いがたい。そこで現在では、マネジメントの概念を用いたクラブ経営や人材の養成も進められている。本授業では実務経験のある講師(商業スポーツクラブのマネージャー、スポーツNPO代表理事、総合型地域スポーツクラブアドバイザー経験者)により、クラブマネジメントの基礎と実践を学び、地域の視点に立ったスポーツのあり方を学習する。【担当：内田、高橋】	クラブマネジメントには大きく2つの側面がありそれぞれについて学ぶ。 ・組織マネジメントとしての人事、予算、施設管理、広報、営業など ・事業マネジメントとしてのスポーツプログラムの(スポーツプログラム、教室、イベント、企画など) 以上のことにより、総合型地域スポーツクラブのクラブマネージャーとして、地域スポーツのマネジメントができることを目指す	○	○	◎

共通科目	スポーツワークショップ（幼児・児童期の身体発達を探る）	2-4年生	前	スポーツ教育を学びスポーツを柱に教員を志すものにとって、人の発達について十分理解を深め、発達の側面から様々な手だてを構築できることが望ましいと考えます。そこで本科目においては、心身の発達の基礎が形成される乳幼児～児童期までの健やかな身体発達の向上に向けた活動内容や具体的支援策について、子どもの「主体性」「発達の側面」をキーワードとした「運動遊びの実践」を通して学びます。さらに担当者の30年間に渡る「体力運動能力測定値と運動遊びの関係―縦断的・横断的研究―」の知見から、保育所及び小学校で体力運動能力の測定を実施し身体発達の科学的理解を深めます。	①乳幼児期から児童期までの発達について学び、「遊び」の重要性を理解できる。②それぞれの発達段階に適した「運動遊び」を学び、個別に指導ができる。③体力・運動能力を測定し、結果を読みとり課題に向けて望ましい指導実践ができる。④社会貢献活動について理解を深め、主体的に取り組むことができる。⑤社会貢献活動についてのルールやマナーを身につけることができる。	○	◎	○
共通科目	スポーツワークショップ（高齢社会の世代間交流）	2-4年生	後	少子高齢社会に突入した今日、人々が安定した生活を送るには「健康」をキーワードとして、世代間が交流を図り、互いに理解し助け合うことはその礎となります。そこで本科目においては、これまでの研究実績「高齢者のクオリティオブライフ―高齢者の健康体操実践の成果」を生かし、北九州市で40年の活動実績がある団体「高齢社会をよくする北九州女性の会」とコラボレーションを図り、本校学生の資質を最大限に生かして健康長寿社会の構築に向けて課題解決にあたります。尚講座は、学内での講義と高齢者の生活や健康問題などに直接触れる学外での実習から構成されます。	①少子高齢社会について学び、世代間の交流が重要であることを理解できる。②様々なシチュエーションにおいて、個別に健康課題について考えることができる。③運動普及や支援については常に積極的に受け止め、望ましい実践ができる。④社会貢献活動について理解を深め、主体的に取り組むことができる。⑤社会貢献活動についてのルールやマナーを身につけることができる。	○	○	◎
共通科目	キャリアアドバンス公務員養成Ⅰ	3年生	前	公務員をめざす学生を対象として、公務員試験での論文、グループ討議の対策を行う。	・公務員の役割について説明することができる。・社会問題・時事問題について言葉や文章で説明することができる。・公務員の職務内容について理解し、採用試験に活かすことができる。	○	◎	○
共通科目	キャリアアドバンス公務員養成Ⅱ	3年生	後	公務員をめざす学生を対象として、公務員試験の面接対策を行う。	・行政の役割について理解し、説明することができる。・行政職員の職務内容について理解し、採用試験に活かすことができる。	○	◎	○
共通科目	キャリアアドバンス教員養成Ⅰ	3年生	後	本科目は、将来保健体育科教員を志望する学生に対して、夏期および冬期等に教員採用試験の専門教養（保健体育）試験対策、実技試験対策、面接及び模擬授業等の対策、最新の教育事情の解説等を集中で行い、能力の向上を図ることを目的とする。	①自ら教員採用試験の情報を収集し、その対策を思考することができる。②積極的に学修したり、実技に取り組んだり、仲間と協力したりすることができる。③保健体育科教員の職業を理解し、“良い保健科教師”になろうとする姿勢を身に付ける。	◎	○	○
共通科目	キャリアアドバンス教員養成Ⅱ	4年生	前	将来、保健体育科の教員を志望する学生に対して、3年次のキャリアアドバンス教員養成から継続して、4年次の教員採用試験終了までの期間に教員採用試験の専門教養（保健体育）試験対策、実技試験対策、面接及び模擬授業等の対策、最新の教育事情の解説等を集中で行い、能力の向上を図ることを目的とする。	①各自の受験する都道府県の教員採用試験の情報を収集し、その対策を思考することができる。②積極的に学修したり、実技に取り組んだり、仲間と協力したりすることができる。③保健体育科教員の職業を理解し、“良い教員”になるための資質能力を身に付ける。	◎	○	○
共通科目	キャリアアドバンス健康指導者養成Ⅰ	3年生	後	この科目は、健康関連資格のうち、実技系統のGFI (REI,SEI,ADI,AQWL,AQDI,WEI)・健康運動実践指導者を目指す者に対して、スキルの向上を図るものである。各資格の実技試験対策、筆記試験対策を行うものである。なお、現予定ではGFI種目のWEIは別途対応であるが、希望者数しだいで時間数を変動させることとする。【担当者:樋口、藤崎】	有酸素運動を最適な説明とともに実践できる。レジスタンス運動を最適な説明とともに実践できる。ストレッチングを最適な説明とともに実践できる。すべての健康運動実践に生かせるだけの知識を有する。健康運動の基礎を最適な説明とともに実践できる。	◎	○	
共通科目	キャリアアドバンス健康指導者養成Ⅱ	4年生	前	この科目は、健康関連資格のうち、認定要件が筆記試験のみである健康運動指導士を目指す者に対して、知識の向上を図るものである。想定試験問題の作成を課し、討論することもある。	健康運動指導士認定試験に確実に合格するレベルの実力を身につける。	◎	○	
共通科目	キャリアアドバンスAT養成Ⅰ	4年生	前	この授業では、アスレティックトレーナーを志す学生への学習支援の経験を活かし、アスレティックトレーナーに必要な知識である「アスレティックトレーナーの役割」「運動器の解剖と機能」「スポーツ外傷・障害の基礎知識」「健康管理とスポーツ医学」「検査・測定と評価」「予防とコンディショニング」「救急処置」「スポーツと栄養」「スポーツ科学」の10科目について正しく理解し説明することができる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの検定試験（理論試験）に合格できる能力を身に付けることができる。	「アスレティックトレーナーの役割」「運動器の解剖と機能」「スポーツ外傷・障害の基礎知識」「健康管理とスポーツ医学」「検査・測定と評価」「予防とコンディショニング」「アスレティックリハビリテーション」「救急処置」「スポーツと栄養」「スポーツ科学」の10科目について正しく理解し説明することができる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの検定試験（理論試験）に合格できる能力を身に付けることができる。	◎	○	○
共通科目	キャリアアドバンスAT養成Ⅱ	4年生	後	この授業では、アスレティックトレーナーを志す学生への学習支援の経験を活かし、アスレティックトレーナーに必要な知識及びスキルである「アスレティックトレーナーの役割」「運動器の解剖と機能」「スポーツ外傷・障害の基礎知識」「健康管理とスポーツ医学」「検査・測定と評価」「予防とコンディショニング」「アスレティックリハビリテーション」「救急処置」「スポーツと栄養」「スポーツ科学」を総合的に学習する。	「アスレティックトレーナーの役割」「運動器の解剖と機能」「スポーツ外傷・障害の基礎知識」「健康管理とスポーツ医学」「検査・測定と評価」「予防とコンディショニング」「アスレティックリハビリテーション」「救急処置」「スポーツと栄養」「スポーツ科学」の10科目について正しく理解し説明・実施することができる。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーの検定試験（理論試験）に合格できる能力を身に付けることができる。	◎	○	○

専攻 コース 科目	スポーツ学概論	1年生	後	本講義では、パフォーマンス向上を目指したアスリートをマネジメントするために必要なスポーツ科学の基礎を学ぶ。スポーツとは何か、選手・指導者・観客の立場に立ち、それぞれの具体的な内容を幅広くとりあげる。さらに、スポーツに関連する基礎的な知識を踏まえ、将来スポーツに携わる人材として必要な知見を身につける。	1.アスリートをマネジメントするために必要な原理・原則が理解できる。 2.スポーツ指導者、コーチとして必要な知識が身についている。 3.スポーツの社会的役割および教育的役割が理解できる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	コーチング各論A	2年生	前	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。球技(ボールゲーム)の体系化とバスケットボールのコーチングにおける心得やチーム管理の方法について学習する。バスケットボールの特性、基本的な攻撃・防御の方法について学習し、その上で段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させていく、また、様々な具体的なバスケットボールの戦術を検証する。	1. コーチの心得を理解する 2. バスケットボールの基本的な技術・戦術や攻撃方法・防御方法を理解し、戦術の目的を分析することができる。 3. バスケットボールのコーチングにおける基本的な事項(チームの管理・練習計画・練習方法等)を理解し、具体的な計画や方法を考えることができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	コーチング各論A	2年生	前	サッカーのコーチに必要な要素を学習し、サッカーの試合で用いる多様な戦術や試合中に選手が行う運動量や運動強度に関する知識を習得する。さらに、試合の分析結果を基に、長期的・短期的な練習計画を作成し、実行するための授業を展開する。	1. コーチに必要な資質やコミュニケーションの方法を理解する 2. サッカーの戦術的知識を習得する 3. 長期、中期、短期の指導計画を作成することができる 4. 試合の分析結果を基に目標を設定し、練習計画を作成することができる	◎	○	○
専攻 コース 科目	コーチング各論A	2年生	前	スポーツ学概論で学習した内容を基礎として、陸上競技の種目の特性に応じた具体的な指導方法やコーチングのあり方・考え方を学習する。また、これまでの研究で明らかにされてきた知見を概観し、基礎的な知識を身に付ける。その基礎的な知識をもとに、陸上競技で必要とされる具体的なコーチング計画の立案方法を身に付けることを目指す。	(1)コーチングの概念を理解した上で、スポーツ科学で明らかにされた客観的事象を知識として身に付ける。(2)陸上競技の各種目の運動構造を理解し、説明することができる。(3)陸上競技の各種目のトレーニング手段や方法・注意点などを理解し、指導計画を立案することができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	コーチング各論A	2年生	前	ラグビーフットボールにおけるコーチング理論と実践を学習する。またラグビーフットボールの競技特性をこれまでの文献や分析から紐解いていく。発展的学習課題として基礎的な知識と理論を習得し、ゲームを分析し、具体的な指導法の立案へとつなげる。	1. ラグビーフットボールの指導方法について理解し、説明出来る。 2. ラグビーフットボールの技術構造や指導方法に関する知識や理論に基づいて指導法を立案することが出来る。 3. ラグビーフットボールにおけるゲームを分析し、トレーニング計画を作成することが出来る。	◎		
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2年生	後	我が国発祥の身体運動文化のひとつである柔道のコーチングについて理解を深める。国内外での先行研究で明らかにされているコーチングの知見を概観し、得られた知識を基に、自らの研究疑問を解決するために簡易な競技分析を行い、現場に活かせるコーチング手法、コーチングプランを立案する。	柔道コーチングの目指す教育的思考について理解を深めることができる。武道コーチングと他のスポーツコーチングの違いを説明できる。柔道のコーチングの手法と練習計画の立案方法を理解し、説明できる。競技における技術・戦術行動を分析し、有効なコーチングポイントを導き出せる。競技ルール変更に伴う戦術行動の変化を理解し、適切なコーチングポイントを提案できる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2年生	後	本講義では、水泳コーチ基礎理論・競泳競技・コーチの役割と安全管理の3本を柱にコーチングの重要な要素について講義し、トレーニングの意図と目的について検討する。また、水泳は「健康スポーツ」の実践としても行われることから、水泳・水中運動の側面からもアプローチする。	1. 水の特性や各泳法の技術特性を理解する。 2. 選手のレベルに応じたトレーニング計画を作成することができる。 3. 水泳コーチの役割と安全管理について説明することができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	コーチング各論B	2年生	後	本講義では、対象競技における基本的な攻撃と防御について学習し、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、より良い指導を行うための目的、方法、評価について本質的に理解し、これらを基盤とした指導および指導計画の立案について学ぶ。更にルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮を重視した指導法を学ぶ。(バレーボール)	①スポーツ科学を取り入れたコーチング知識を身に付けることができる。②戦術・戦略について解説できる。③コーチングを通じて人材育成の基礎を理解できる。④チームビルディングについての技能を活用できる。	◎		
専攻 コース 科目	コーチング実習	3年生	前	コーチング各論で学んだコーチング方法について、実習形式でコーチングを体験する。またコーチングの課題や自らの問題点を考え、よりよいコーチングのための工夫を試みる。実習は、学内外の競技団体において競技力向上を目指した活動を定期的に実施し、専門的な指導者(監督・コーチ)が配置している団体で行うこととする。	①各競技特性を理解したコーチングの実際を理解する ②競技力向上に向けたコーチングの計画的な方法を理解する ③コーチングの課題や問題点を知り、解決法を自ら考えることができる		◎	
専攻 コース 科目	コーチングシステム論	2年生	後	スポーツにおけるコーチとは、プレーヤー自身が「なりたい」と思う自分に近づぐために、その活動をサポートする存在である。また近年では、コーチの社会人としての資質が求められる。その構造化(システム化)は必要なことでもあり、その構築について学ぶ。コミュニケーション、モチベーション、積極的傾聴など、コーチング理論の基礎から学生自身のスポーツ種目に応用した学習を行う。	1. コーチングのシステム化を理解し、自身の種目に応用できる 2. 人間教育としてのコーチングの重要性を理解する 3. コーチ自身が社会の模範であることを理解する	○	◎	○
専攻 コース 科目	トレーニング計画論	2年生	前	競技力を向上させるためには、科学的根拠に基づいたトレーニングを行うことが最も効果的である。そこで本講義では、スポーツ指導者にとって不可欠な知識であるスポーツトレーニング理論を体系的に学ぶことを主たる目的とする。またトレーニングの基礎知識を習得し、そのトレーニングがもたらす効果を理解し、目的に応じたトレーニング方法を選択し、処方出来るようになる。	1. スポーツトレーニングの医学的基礎知識について理解し説明出来るようになる。 2. スポーツトレーニングの理論や方法論を理解し説明出来るようになる。	◎		

専攻 コース 科目	スポーツ戦術論	4年生	前	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。スポーツの戦術は、試合で勝利するために個人やチームの持つ能力を合理的に活用し、最高のパフォーマンスを発揮するための方法である。スポーツにおける戦術行動の意義と重要性を認識するために様々なスポーツ種目に共通する指導上の手がかりを学習する。そして、技術や戦術の分析能力、科学的知見、経験等がスポーツ戦術に必要であることを理解し、競技力向上のための技術と戦術の間わりについて学習する。	1. スポーツにおける戦術・戦術行動の意義や重要性を理解し、様々な戦術を分析することができる。 2. 戦術行動の前提条件やスポーツ戦術に必要な科学的知見・分析能力・経験等を理解した上で、戦術プランを立案することができる。	○	○	◎
専攻 コース 科目	スポーツ方法論	3年生	前	スポーツの競技力向上を念頭に置いたコーチング学の立場から様々なスポーツ種目を対象に方法論を学習する。そのために各種目の競技力構造を理解した上で、競技力養成のための技術トレーニング、戦術トレーニング、体力トレーニング、心的・知的トレーニングの方法について理解を深めていく。更にそれらの方法論に則ったトレーニング計画や試合準備について学習する。	1. スポーツの特性を理解し、説明・記述ができるようになる。 2. スポーツ指導方法の理論的な発展について説明できるようになる。 3. 各種スポーツの競技力構造について類型化できるようになる。 4. スポーツ競技力養成のための方法論について様々な視点から説明できるようになる。	◎		
専攻 コース 科目	レジスタンストレーニング実習	2年生	前	トレーニング実習(1年次)の内容を踏まえ、フリーウエイト、トレーニングマシンを用いたトレーニングの方法を学ぶ。特にクリーン&ジャーク、スナッチの基本動作を習得し、より高負荷でのウエイトリフティング運動を行えるようにする。また、トレーニングプログラムの作成、作成したトレーニングプログラムに沿ったトレーニングの実施、及びトレーニング効果の評価という一連の過程を経験し、その実施法を習得することを旨とする。	①トレーニングプログラムの作成法を理解することができる。 ②トレーニング効果の評価法を理解することができる。 ③クリーン&ジャーク、スナッチの基本フォームを習得し、一定の重量を挙上することができる。	◎		○
専攻 コース 科目	メンタルトレーニング演習	2年生	後	メンタルトレーニング(MT)は、自己の能力を最大限に発揮するために、運動遂行時の精神状態を最適にコントロールするための心理的技法である。具体的にはリラクゼーション技法、イメージの活用、目標設定技法などがあげられる。本授業ではそれらの技法を実際に体験し、自らが体得するとともに、指導場面にも活かしていることも目指す。またMTの可能性と限界、スポーツカウンセリングとの関連についても触れる。	1. 各種の心理的技法の内容について具体例をあげて説明ができる。 2. 自身の競技遂行におけるメンタル面の課題を分析し、学習した心理的技法を日常のトレーニングに活用できる。 3. 指導の立場に立ったときのことを想定し、チームあるいは個人選手を対象としたメンタルトレーニングプログラムを立案できる。 4. メンタルトレーニングとスポーツカウンセリングの関係性について説明ができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツパフォーマンス測定実習	3年生	前	スポーツトレーニングの現場では、パフォーマンスの向上を目指すために、目標を決め、実行し、それを評価することによってトレーニング効果を明確にすることが求められる。トレーニング科学の発達により、測定と評価、すなわち様々な身体、体力、技能要素のデータを収集し分析することが、現場レベルで容易に行なうことが可能になった。本実習では、トレーニング現場で役立つスポーツパフォーマンスの測定法・評価法を学び、現場と研究室の橋渡しをできる力を身につける。	1)授業で行なった測定法を実際に実施することが出来る。 2)測定法について記述して説明できる。 3)測定データを解析し評価できる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツゲーム分析演習	3年生	後	近年、多くの競技スポーツでは、客観的な指標を用いて競技力やパフォーマンスの評価が行われている。本科目では、「球技」を対象としてゲーム観察による客観的なデータ収集とその分析方法を演習し、ゲーム分析の意義について理解を深める。授業においては、ゲーム映像の活用と表計算ソフトの利用によって多くのデータを収集した上で、それらを統計的に分析し、結果を競技種目の特性や現状を考慮した解釈による評価方法を学習する。	①スポーツにおける「ゲーム分析」の意義を理解する ②スポーツにおける「ゲーム分析」の基本的な方法を理解する ③分析した情報を解釈し、客観的に伝えることができるようになる	○	◎	○
専攻 コース 科目	スポーツ栄養指導演習	4年生	前	スポーツ選手は常に栄養士・管理栄養士から適切な栄養指導が受けられるとは限らず、スポーツ指導者やトレーナーは選手に対して栄養指導や栄養アドバイスができる能力も求められる場合がある。本演習は栄養指導能力向上のため実践演習に重きを置き、講義の「スポーツ栄養学」を基盤としながらも、アセスメントとしての24時間思い出し法、料理カード選択演習などの栄養系授業で行っていない内容の演習を展開する。	スポーツ栄養学を理解する。 スポーツ現場で個人または集団に実践的な栄養サポートを行う際に必要な知識と技法を修得する。 スポーツ選手への栄養指導や助言ができる。		◎	○
専攻 コース 科目	地域スポーツ論	3年生	前	これまで日本のスポーツは職域や学域によって発展してきたとされる。しかし、その形態は限界を向かえつつあり、地域へのシフトが行政的にも計画されている。その政策の一つが総合型地域スポーツクラブであり、地域住民を主体とした形式、非営利での実施をベースにしたものである。授業は担当教員自身がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会から従事(15年)した経験を活かし、展開する。	1. スポーツの歴史的な背景を学び、我が国のスポーツ環境や地域スポーツを理解する 2. 地域スポーツの未来について創造できるようになる 3. 生涯スポーツについてマネジメントする能力を身につける	○	◎	○
専攻 コース 科目	障害者とスポーツ	3年生	後	障がいの有無にかかわらず、全ての方にスポーツ指導ができる人材を養成する。本授業では、障がい者への運動指導を実践してきた教員が障がいの病態と特性を説明し、障がい者が親しんでいるスポーツ種目について具体例をあげながら解説する。また、障がい者のスポーツ大会やスポーツに使用する補装具についても説明する。	障がい者理解し、障がい者が実施しているスポーツを学ぶことで、障がい者と共にスポーツを楽しむことができる。 また、障がいの特性に応じてスポーツを創造できるようになる。	◎	○	○

専攻 コース 科目	学校体育のマネジメント	3年生	前	教育現場における運動学習を進める上で教師の教授技術は重要である。中でも実際の運動活動の時間(経験)を保障する上でマネジメント技術は最も重要で、準備・後片付けのみならず、授業中の説明や安全管理、学習者の学習意欲促進のための演出(教材、教具、用具、器具等)のため、どのように計画すれば良いのか理解する。	1 運動学習を進める上で教師の役割を具体的に説明することができる。 2 運動学習の指導におけるマネジメント理論・方法を説明することができる。 3 マネジメントの変化と学習者の獲得された運動学習の成果との関係を説明することができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	学校体育指導演習	3年生	前	本演習では、体育授業を行うための単元構造図、学習指導案の作成、それらに基づいた模擬授業の実践を行う。 第1回目の模擬授業では特に、マネジメント、学習規律肯定的人間関係、情緒的開放といった体育授業の基礎的条件に着目する。 第2回目の模擬授業では特に、明確な学習目標、興味を引く内容、教材、場づくり、教師の指導性といった内容的条件に着目する。 また、模擬授業の分析、省察を行い、学習指導案の修正、改善を図り、よりよい授業実践につなげていく。【担当:田代智、中村】	学習指導要領の目標及び内容を説明でき、単元計画及び学習指導案に活かすことができる【知識・技能】。 運動技術の構造や習得過程について理解し、教材づくりに活用できる【思考力・判断力・表現力】。 教材研究に主体的に取り組むとともに、他者と協働して授業の分析、評価診断、省察を行うことができる【主体性・協働性】。	○	◎	○
専攻 コース 科目	器械運動指導法(体づくり運動を含む。)	2年生	前	器械運動の各種目(マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動)には多くの技が存在するが、それらの技は運動技術的に類縁性を有する技群にまとめられることができる。授業においては、それぞれの技の基本技術や系統性について学ぶとともに、効果的に技を習得することができる指導方法を実践的に理解できるようにする。さらに、模擬授業を行うことで、補助の方法や練習の場づくりに関する知識を身につけて工夫するなど、指導法の実践力向上を目指す。また、体づくり運動の指導についても実践力を高めることができるようになる。なお、本授業は講義と実技を合わせて行う。	1. 器械運動各種目の技の基本技術や系統性を理解し、基本的な技ができるようになる。 2. 器械運動と体づくり運動の指導計画(指導案)を作成することができる。 3. 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。 4. 補助法について理解し、適切に実践できるようにする。 5. 練習の場づくりに工夫することができるようになる。 6. 学習段階におけるつまずきとその対処法について理解する。	◎	○	○
専攻 コース 科目	陸上競技指導法	2年生	後	学習指導要領解説にある中学校・高等学校の各種目の技能についての確認を行い、種目の基礎知識や種目の特性に合った具体的な指導方法を学習させることで陸上競技の指導力向上を目指す。また、講義で学習した指導方法を実践し、お互いに技能の習得を目指すことで、指導法の実践力向上を目指す。	① 陸上競技の運動を理解し、説明・記述・実演できる ② 陸上競技の指導計画(指導案)の作成ができる ③ 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができる ④ 指導方法等の学習した知識を生かして、互いの競技力を向上させることができる	◎	○	○
専攻 コース 科目	水泳指導法	3年生	前	○本授業では特に、小学校から高等学校までの「学校水泳」における水泳指導法を身に付けた教員の養成を目指します。これまでの保健体育科教諭(専門:水泳)、日本スポーツ協会公認「水泳コーチ4」としての実務経験を活かした授業を展開します。 ○初心者を対象にした「水遊び」や初級者を対象とした「水慣れ、浮く・進む」から、中級者・上級者の各種泳法(4泳法)までの基本的な指導法を理解させるとともに、学習者のレベルに応じた水泳指導の工夫をすることができる指導力の育成を目指します。 ○授業における具体的な課題等を取り上げ、ペアやグループによる学び合いや模擬授業等のALの学習法を取り入れ、学生の主体的な学びを推進します。	○児童生徒の水中での自己保全能力(水中での生きる力)、水辺での危険回避や安全確保の能力を育む指導ができる。 ○小学生・中学生・高校生を対象に、学習者の技能(泳力)に応じた適切な水泳の指導ができる。 ○児童生徒が、主体的・対話的に水泳の授業に臨む意欲や態度の育成に繋がる水泳の指導ができる。 ○水泳指導時における安全・安心の確保ができる。 ○学習指導計画(指導案)を的確に作成でき、それを基に計画的・系統的に実技指導をすることができる。 ○目標に準拠した評価をすることができる。	○	◎	
専攻 コース 科目	球技指導法A	2年生	後	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身につける。段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「バスケットボール」である。	1. 球技運動を理解し、説明・記述・実演できるようにする。 2. 球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。 3. 立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	球技指導法A	2年生	後	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身につける。段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「ハンドボール」である。	1. 球技運動を理解し、説明・実演できるようにする。 2. サッカーの基礎技術を理解する。 3. サッカーの基礎的な守備の方法を理解する。 4. サッカーの基礎技術や守備に関する実技指導ができるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	球技指導法A	2年生	後	「球技」の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身につける。段階的に戦術や戦術行動の理解および指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生懸命取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「ハンドボール」である。	1.球技運動を理解し、説明・記述・実演できるようにする。 2.球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。 3.ゴール型球技について、学習指導要領に基づいた指導内容を理解する。	◎	○	○



専攻 コース 科目	球技指導法B	3年生	後	球技の特性及び基本的な攻撃・防御の方法について学習し、ゴール型球技を題材にその基本的な技術の教授法を身に付ける。段階的に戦術や戦術行動の理解及び指導方法の立案等の学習に発展させる。スポーツ教育の一環としての球技において、一生涯懸命に取り組むこと、チーム競技を理解すること、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視される。本科目では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導及び指導計画の立案について学ぶ。対象種目は「ラグビー」である。	1. 球技運動を理解し、説明・記述・実演が出来るようになる。 2. 球技の指導計画(指導案)の作成が出来るようになる。 3. 立案した指導計画(指導案)を基に、ラグビーの実技指導が出来るようになる。	◎		
専攻 コース 科目	球技指導法B	3年生	後	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実験を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、より良い指導を行うための工夫を試みる。本講義では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。更に、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。(バレーボール)	①球技運動を理解し、説明・記述・実演ができるようになる。 ②球技の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。 ③立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。	◎		
専攻 コース 科目	球技指導法B	3年生	後	対象競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法について学習し、基本的な技術の習得の実験を体験する。また、教育的指導の課題や球技指導の問題点を考え、より良い指導を行うための工夫を試みる。本講義では、指導の目的、内容、方法、評価について本質的に理解し、これらを意識した指導および指導計画の立案について学ぶ。また、ルールやマナーの遵守、健康・安全への配慮も重視した指導法を学ぶ。中学及び高校の教員経験を活かし、授業を展開する。	①球技(バドミントン)運動を理解し、説明・記述・実演ができるようになる。 ②球技(バドミントン)の指導計画(指導案)の作成ができるようになる。 ③立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	ダンス指導法	3年生	前	「ダンス」は、学習指導要領に示されている運動領域の一つであり、中学校・高等学校において扱う領域として位置づけられている。本科目では、様々なダンス(現代的なリズム、フォークダンス、創作ダンス)の体験を通して、基礎的な技術を習得し、指導する上で必要となる身体表現の基礎を身に付けることを目的とする。具体的には、ダンス理論や基礎的なダンスの動き、ダンス指導の際の留意点などを実技を通して学修する。	①学習指導要領の領域「ダンス」の内容を理解する。 ②ダンスの基礎技術、指導法、発表技法について理解する。また、仲間と協力して作品創作に取り組むことができる。 ③テーマに即した身体表現・作品創作・発表ができるようになる。 ④ダンスを通して、スポーツ文化全体の支援者としての実践的・教育的な能力を身に付ける。	○	○	◎
専攻 コース 科目	武道指導法	3年生	後	学校体育における武道領域の授業展開において必要な単元構想力、授業設計力、教材開発力、実践的指導力の修得を図る。各種武道(剣道・柔道)における個人技能及び対人技能を安全に楽しく習得させるための実技と演習を行う。	学習指導要領に記載される武道の目標及び内容を説明でき、単元計画及び学習指導案に活かすことができる。柔道や剣道の技術構造や習得過程について理解し、教材づくりに活用できる。教材研究に主体的に取り組むと共に他者の意見を尊重し、協働して授業の分析、評価、診断、省察を行うことができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	学校保健Ⅰ(学校安全を含む。)	3年生	前	「学校保健」および「学校安全」の性格を理解しつつ、歴史的な背景をふまえて、「学校保健活動」を具体的な実践として説明できることを目指します。そのため、既存の理論・データおよび現場の状況から「学校保健活動」を理解できるように、教員が各テーマについて解説する時間だけではなく、受講生同士が持つ考え方やアイデアを共有し合う活動を行います。	・「学校保健」および「学校安全」の性格を理解し、具体的な説明ができる。 ・「学校保健」および「学校安全」がどのような活動・枠組みで構成されているのかを理解できる。 ・理論やデータと、自分自身の目指したい「学校保健活動」とを結びつけて、具体的な実践を計画できる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	学校保健Ⅱ(小児保健・精神保健を含む)	3年生	後	「学校保健」、特に「小児保健」および「精神保健」の性格を理解しつつ、歴史的な背景をふまえて、「学校保健活動」を具体的な実践として説明できることを目指します。そのため、既存の理論・データおよび現場の状況から「学校保健活動」を理解できるように、教員が各テーマについて解説する時間だけではなく、受講生同士が持つ考え方やアイデアを共有し合う活動を行います。	・学齢期の子供たちに特有な疾病のうち、学校活動とかかわりの強い疾病の基本的事項や、その対策について理解できる。 ・学齢期の子供たちにおける精神疾患の現状や、その対策を理解できる。	○	◎	○
専攻 コース 科目	学校保健指導演習	3年生	後	本科目では、主に「保健の授業」について実践的な側面を扱います。具体的には、学習指導案の作成や模擬授業の検討会を通して、それぞれの目指したい授業を実践しているような資質・能力の形成を目標とします。	①教科教育としての「保健」の位置づけを理解することができる ②他者の学習指導案を評価できる ③模擬授業を実施できる ④他者の模擬授業を評価できる	○	○	◎
専攻 コース 科目	社会体育論	2年生	前	社会体育は、現在では生涯スポーツと位置付けられており、生涯スポーツの現状や課題、意義について、自治体の政策実務をふまえた講義を展開する。	・生涯スポーツの現状と課題について説明できる。 ・学校体育と生涯スポーツの違いや関連性について説明できる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	ジュニアスポーツ論	3年生	前	年齢段階の発育・発達およびその個人差を理解し、それに応じたプログラムを選択し、指導することが必要である。理解なく、誤った指導を行なった場合、子どもにとって重大なスポーツ障害を発症させる可能性がある。本講義では、乳幼児期から青年期までの発育・発達に応じたスポーツプログラムについて体系的に学習し、ジュニアスポーツを指導するものとして必要な能力を身につけた学生の育成を目指す。【担当：花田・乙木】	遊びや運動の方法や注意点について性、年齢あるいは、意欲に応じた指導方法を考えられる知識を得ることができる。また、ジュニア期のスポーツ指導者として多様なニーズに対応した基礎的知識と指導法を習得することができる。	◎	○	○

専攻 科目	ジュニアスポーツ指導演習	3年生	後	本科目は、ジュニアスポーツの指導場面において必要とされる、コーディネーショントレーニングの指導方法について、主に理論学習や模擬指導を実施する。また、子どもたちが自主的に運動(活動)を行えるようなゲームを紹介する。【担当:花田・乙木】	①「走る」「跳ぶ」「投げる」等の運動動作を理解し、説明・記述・実践できる。 ②多種多様なゲームの指導ができる。③立案した指導計画(指導案)を基に、実技指導ができる。④模擬指導に積極的に参加し、その後の討論で意見を述べる事ができる。⑤指導の組み立てと時間配分が的確にできる。	○	○	◎
専攻 科目	機能解剖学Ⅰ	2年生	前	アスレティックトレーナーとしてアスリートへ実施したスポーツ傷害のリハビリテーションやリコンディショニングでの経験を活かし、スポーツ傷害やリコンディショニングを機能解剖学的に理解できるように授業を展開する。①人体の動きを理解するために必要な骨、関節、筋肉、神経などの解剖学的用語について学ぶ。②運動学的側面からの人体の機能について学ぶ。③本科目では運動器の機能解剖概論、身体運動の基礎、上肢の機能解剖について学ぶ。	①人体の動きを理解するために必要な骨、関節、筋肉、神経などの解剖学的用語について説明することができる。②運動学的側面からの人体の機能について説明することができる。③本科目では運動器の機能解剖概論、身体運動の基礎、上肢の機能解剖について説明することができる。	◎	○	○
専攻 科目	機能解剖学Ⅱ	2年生	後	アスレティックトレーナーとしてアスリートへ実施したスポーツ傷害のリハビリテーションやリコンディショニングでの経験を活かし、スポーツ傷害やリコンディショニングを機能解剖学的に理解できるように授業を展開する。①人体の動きを理解するために必要な骨、関節、筋肉、神経などの解剖学的用語について学ぶ。②運動学的側面からの人体の機能について学ぶ。③本科目では体幹の機能解剖、下肢の機能解剖について学ぶ。	①人体の動きを理解するために必要な骨、関節、筋肉、神経などの解剖学的用語について説明することができる。②運動学的側面からの人体の機能について説明することができる。③本科目では体幹の機能解剖、下肢の機能解剖について説明することができる。	◎	○	○
専攻 科目	スポーツ傷害論Ⅰ	2年生	前	スポーツ選手の外傷・障害の予防、救急処置、受傷から復帰までのアスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどを実践していくためには、スポーツ医学に関する知識と技術が必須である。本科目では、スポーツ選手を医学的側面からサポートする際に欠かすことの出来ないスポーツ外傷・障害、バイオメカニクス、コンディショニングの基礎知識について解説する。	①主なスポーツ傷害の概要を理解し説明できるようになる。②スポーツ傷害の発生原因をバイオメカニクスの観点から推測し、説明できるようになる。③スポーツに必要なコンディショニングの基礎知識を理解し、スポーツ傷害の予防、パフォーマンスアップに役立てることができる。	◎	○	○
専攻 科目	スポーツ傷害論Ⅱ	2年生	後	スポーツ選手の外傷・障害の予防、救急処置、受傷から復帰までのアスレティックリハビリテーション、コンディショニングなどを実践していくためには、スポーツ医学に関する知識と技術が必須である。本科目では、スポーツ選手を医学的側面からサポートする際に欠かすことの出来ないスポーツ外傷・障害、バイオメカニクス、コンディショニングの基礎知識について解説する。	①主なスポーツ傷害の概要を理解し説明できるようになる。②スポーツ傷害の発生原因をバイオメカニクスの観点から推測し、説明できるようになる。③スポーツに必要なコンディショニングの基礎知識を理解し、スポーツ傷害の予防、パフォーマンスアップに役立てることができる。	◎	○	○
専攻 科目	コンディショニング論	2年生	前	本科目では、担当教員のアスレティックトレーナーとしての現場経験を基にスポーツ現場におけるコンディショニングの定義及び手法を学ぶ。コンディショニングとコンディショニングを考え、セルフコンディショニングを含んだ概念を理解し各種コンディショニングの方法を学ぶ	①コンディショニングとコンディショニングの意味を説明できる ②コンディショニングの必要性やその実施方法を説明できる ③アスレティックトレーナーになるためのコンディショニングの基礎知識を身につけスポーツ現場で実践できる	◎	○	○
専攻 科目	コンディショニング演習	2年生	後	本講義では、担当教員のアスレティックトレーナーとして経験を背景に、「コンディショニング論」で学んだ手法などを実践し、そのポイントについて学ぶ。また、競技者を想定し、これまで学んだ知識・技術を活用し、様々なプログラムの立案・設計を行う。	目標を達成するためのコンディショニングプログラムを作成することができる。コンディショニングを実践し、指導することができる。	○	◎	○
専攻 科目	身体機能評価法	2年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、スポーツ現場で実施されている評価法や検査法を展開していく。競技間の違いによる検査法の選択や、競技特性を考慮した検査法を学習しより実践に近い内容とする。授業ではアスレティックトレーナーとして必要な検査・測定法を学習し、その得られたデータを統合させコンディショニングの維持・外傷の予防、怪我からの復帰など選手に対して最善の状態に持っていくために必要な知識・技術の学習を行う。実技演習も実施し、検査・測定方法を実際に体験し、技術の習得を目指す。また、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得に必要な筆記試験・実技試験の内容を中心に学習していく。	①各種の評価法の理解と実施が出来るようになること ②身体機能評価で得られたデータを統合できるようになること ③動作分析ができるようになること 授業到達目標は上記①～③に加え、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格取得に必要な筆記試験・実技試験の内容を含む。また、学生トレーナーとして選手のコンディショニングの管理が出来るようになることを目指す。	○	○	◎
専攻 科目	スポーツ傷害評価法	3年生	前	本講義はスポーツ現場でアスリートの応急処置やリハビリテーションを実施した経験を活かして、その際のスポーツ傷害の評価方法についてより実践的に学生が体験しながら学習する。スポーツ現場でみられる上肢・体幹・下肢のスポーツ外傷・障害に対する評価法を学ぶ。	①HOPS・SOAPに沿って問診をすることができる。②評価に必要な検査・測定ができる。③主訴及び受傷機転から必要な検査を選択し、実践することができる。	◎	○	○
専攻 科目	リハビリテーション論	3年生	前	アスレティックトレーナーとして、スポーツ選手に対してリハビリテーションを実施してきた経験を活かし、リハビリテーションとは何かを理解し、メディカルリハビリテーション及びアスレティックリハビリテーションの理論について学ぶ。	リハビリテーションについて理解し、説明できる。メディカルリハビリテーションについて理解し、説明できる。アスレティックリハビリテーションについて理解し、説明できる。	◎	○	○

専攻 コース 科目	アスレティックリハビリテーション論	3年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。本講義では、部位および外傷・障害別におけるアスレティックリハビリテーションについて学ぶ。具体的には傷害発生メカニズムから再発予防までを考慮したアスレティックリハビリテーションプログラムの概要や作成方法とその留意点について学ぶ。	1. 各部位および外傷・障害別におけるアスレティックリハビリテーションの概要を理解し、説明できるようになる。2. 安全かつ効果的なプログラムを作成できるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	アスレティックリハビリテーション演習	4年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験をもとに授業を展開する。各種スポーツ外傷・障害に対するアスレティックリハビリテーションの流れを理解する。また、外傷・障害発生メカニズムから再発予防や各競技特性を理解したうえでプログラムを作成し、適時各エクササイズの実践を行う。	1. 競技現場における安全で効果的なアスレティックリハビリテーションを実践・指導をすることが出来る。2. 各スポーツ外傷・障害および競技特性を踏まえて適切なプログラムを作成することが出来る。3. 競技復帰だけでなく再発予防という観点からも指導をすることが出来る。	○	◎	
専攻 コース 科目	スポーツ内科学	3年生	後	スポーツドクターとしてアスリートの診療やメディカルチェックを行う教員が、その経験を活かし、実践に即した内容の授業を行う。スポーツには、成績を競う競技スポーツの側面だけでなく、健康増進を目的に行う健康スポーツの側面がある。また、スポーツにおける健康障害には、整形外科的な障害だけでなく、内科的障害もある。本講義では、高齢者・有病者を含むすべての人々が安全にスポーツを行うことができるよう内科的な知識を習得し、その実践を行えるようになることを目的とする。	内科的疾患およびスポーツによってもたらされる内科的障害を理解し、安全にスポーツを行えるように指導することができる。メディカルチェックの内容・方法を理解し、実践することができる。ドーピングコントロールについての知識を習得し、適切なアドバイスをできるようにする。スポーツによる内科的障害を理解し、その予防計画立案できる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	アスレティックテーピング(AT受験者)	3年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験をもとに授業を展開する。スポーツ外傷・障害の予防、保護、再発予防などに用いられるテーピングの基本的な巻き方を学ぶ。また、各競技やスポーツ外傷・障害の特性を考慮した応用的な巻き方についても学ぶ。	1. 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(JSPO-AT)取得者と同等レベルの知識と技術を修得する。2. 競技者に対して適切なテーピングを巻くことが出来る。	◎	○	○
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅰ	3-4年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅰはこのカテゴリーの①見学実習(30時間)に相当する。【担当:辰見、名頭直】	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようにする。5種類のスポーツ競技を見学し、競技特性や想定されるスポーツ外傷・障害をまとめることができる。	○	◎	○
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅱ	3-4年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅱはこのカテゴリーの②検査・測定、評価実習(30時間)に相当する。【担当:名頭直、久保】	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようにする。主なスポーツ外傷・障害に対して検査・測定ならびに評価を実施し、それらを適切に記録することができるようになる。	○	◎	○
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅲ	3-4年生	前	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅲはこのカテゴリーの③スポーツ現場実習(30時間)に相当する。【担当:西山、久保】	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようにする。スポーツ現場で発生するスポーツ外傷・障害に対して評価を行ったうえで、適切な応急処置ができるようになる。その他、ストレッチング指導やテーピング等も行うことができるようになる。	○	◎	○
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅳ	3-4年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅳはこのカテゴリーの④アスリハ実習(30時間)に相当する。【担当:辰見、西山】	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようにする。主なスポーツ外傷・障害に対して適切なアスレティックリハビリテーションプログラムを作成し、指導することができるようになる。	○	◎	○
専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場実習Ⅴ	3-4年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習Ⅴはこのカテゴリーの⑤総合実習(60時間)の前半に相当する。【担当:西山、久保】	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようにする。主なスポーツ外傷・障害に対して適切な評価を行ったうえで、アスレティックリハビリテーションプログラムを作成し、外傷・障害の発生から競技復帰に至る全てのプロセスを指導することができるようになる。	○	◎	○

専攻 コース 科目	アスレティックトレーニング現場 実習VI	3-4年生	後	アスレティックトレーナーとしての経験を活かし、授業を展開する。日本スポーツ公認アスレティックトレーナー試験を受験するには有資格者の下で180時間以上の実習を行う必要がある。日本スポーツ協会の指定実習内容は①見学実習(30時間)、②検査・測定、評価実習(30時間)、③スポーツ現場実習(30時間)、④アスリハ実習(30時間)、⑤総合実習(60時間)である。アスレティックトレーニング現場実習VIはこのカテゴリーの⑤総合実習(60時間)の後半に相当する。【担当:辰見、西山】	学生トレーナーとして実習を行い、アスレティックトレーナー活動への理解を深め、スポーツ現場で実践できるようになる。主なスポーツ外傷・障害に対して適切な評価を行い、アスレティックリハビリテーションプログラムを作成し、外傷・障害の発生から競技復帰に至る全てのプロセスを指導することができるようになる。	○	◎	○
専攻 コース 科目	健康フィットネス概論	1年生	後	生活習慣病のような文明病は、個々の意識の向上と社会的システムの構築によって十分克服できるものとする。そこで本講義では、健康とは何か、フィットネスに対する関心の高まりの社会的背景、健康とフィットネスとの関係、運動のプログラムなどについて学習するとともに、健康運動指導士及び健康運動実践指導者資格の受験に必要な基本的知識を学習する。	・健康運動指導士と健康運動実践指導者の役割を説明できる。・健康づくりのための各種方法を説明できる。・運動が身体に及ぼす影響を説明できる。	◎		
専攻 コース 科目	健康づくり運動理論	2年生	前	運動は、主に生活習慣病の予防・治療にとって食事療法・薬物療法と並んで有効な手段である。しかし、運動の仕方を間違えかえって病状を悪化させることもある。ある目的をもって運動しようとするとき、その目的を達成するのに最も適した運動の内容を決めることを「運動処方(Exercise Prescription)」という。本講義は、健康を回復・保持・増進するための方法として、運動の原理・原則について学び、実際に運動処方(運動プログラム)を作成するときの基礎知識を習得させる。	運動不足から発症する生活習慣病を予防・治療することを目的とした運動を処方するための基礎知識を理解し、健康づくり運動指導者に求められる資質を高める。	◎		
専攻 コース 科目	健康づくり運動実技	2年生	後	健康づくりのために運動を行なうことは、現代社会においては必要不可欠であり、そのための運動指導者の役割や使命は大きなものになってきています。本実習では、運動指導者として最低限必要とされるスキルを身に付けながら、健康づくり運動として提えられている運動(特に陸上運動としてのスプレッド・ジョギング・ウォーキング・レジスタンスエクササイズ)についての知識と理解を深め、さらに実践力を高めていきます。「健康運動実践指導者」資格取得を目指して学びを深めていきます。	健康づくり運動の指導者として求められる知識と指導技術を習得する。特に、運動効果を高めるためのフォームや対象者に応じた運動の組み立て方、指導現場における安全管理のノウハウについて身につける。具体的には、健康づくり運動を①適正な動作・フォームで実演できる②目的を理解し説明できる③適切な表現で伝達できる④ポイントや注意点を指導できる⑤対象者を観察し動きの修正や動機付けができる技能を身に付ける。	◎		
専攻 コース 科目	運動器の構造と機能	2年生	前	本科目では、人体の骨格や筋肉の構造など、ヒトの運動にかかわる身体の構造とその機能について基本的な知識を身に付けることを目的としている。また、トレーニング指導や運動処方を行う際に必要な運動学的知識について具体例をあげながら説明する。	①ヒトの運動にかかわる基本的な身体の構造とその機能を理解し説明することができる。②ヒトの筋肉や骨、靭帯など基本的な部位を触ることができる。③基本的な運動学の知識を基に、適切なトレーニング指導や運動処方について考えることができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	健康医科学論	2年生	前	健康の概念、スポーツ活動と健康の関連について医科学の面から学ぶ。スポーツは健康増進に寄与すると考えられるが、スポーツ活動に伴う医学的諸問題も存在する。医師担当部分では、それらの諸問題、特にスポーツ外傷や障害、内科的障害の特性や対応策について講義する。また、コロナ禍が続く現在の社会環境を踏まえた上での「健康」についても考えるものとする。【担当者:樋口、下野】	スポーツ・健康運動現場において見られる様々な外傷・障害、内科的障害の概要を理解し、それらの予防と対応ができる。スポーツ・健康医科学の専門家と連携をとることができる。健康観について論ずることができる。	◎	○	
専攻 コース 科目	スポーツカウンセリング論	3年生	前	スポーツカウンセリングは、選手へのカウンセラーによる心理的支援、あるいは両者の共同作業によって、選手の自己の内的変容や成長が促される営みである。選手の内的変容や成長に伴って、安定した競技力の発揮や向上にもつながることが期待できる。本講義は、スポーツカウンセリングの基礎的な理論及び方法について学び、自身の競技実践また将来の指導実践において役立つ知見を学習する。	1. スポーツ場面において競技者が抱える不安や受傷体験など、その意味について臨床学的に考察することができる。2. カウンセラーの基本的態度について理解し、説明することができる。3. カウンセリングの継続や中断の意味について理解し、説明することができる。4. カウンセリングのベースとなっている理論について説明することができる。5. スポーツカウンセリングとメンタルトレーニングの違いについて説明することができる。	◎	○	
専攻 コース 科目	運動生理学	2年生	後	運動生理学は運動及び特殊な環境下での身体機能の一時的、持続的変化について学び、研究する学問です。運動・健康に携わる指導者にとって必要な知識を学習し、身体活動時の生理的変化を科学的な立場から考察できる資質を養うことが目的です。本授業では骨格筋系、神経系、呼吸器系、循環器系等の運動時のメカニズム及び特殊環境下での身体適応について学習します。	健康運動指導士試験に合格できるレベルを到達目標とする。運動及び環境の変化が身体に及ぼす効果を論理的に説明できる。	◎	○	
専攻 コース 科目	生活習慣病概論	3年生	前	「生活習慣病」とは、運動や食事・喫煙・飲酒・睡眠などの生活習慣が、発症および進行に関与する疾患群であり、代表的なものとしては、糖尿病・高血圧症・脂質異常症・肥満症・メタボリックシンドローム・虚血性心疾患・ロコモティブシンドロームなどがあげられる。これらの疾患について概説するとともに、基礎的な医学的知識を習得することを目標とする。また、これらの疾患を改善させる「運動療法」についても学習する。本授業は、現役医師の経験を活かした授業を展開する。【担当:下野、寺脇】	生活習慣病の定義やその病態を理解し、それぞれの疾患についての診断・治療等について理解できる。運動療法を行うにあたって、基本的な医学的知識を身につける。有疾病者に対しても、安全に運動療法を行うことができる。効果的かつ安全な運動プログラムを立案できる。	◎	○	

専攻 コース 科目	運動負荷試験	3年生	前	本授業は運動時に発症する潜在的な疾患に対する診断と評価及び運動療法や薬物療法に対する効果判定に必要な運動負荷試験の知識と技術を学ぶ。運動負荷には専用の自転車エルゴメーター及びトレッドミルを使用し、運動強度を自動設定して標準12誘導の心電図を計測する。測定された心電図波形を解析し、心電図評価を実施する。運動負荷試験実習およびその判定・評価では、日本医師会認定健康スポーツ医が指導を行う。【担当：清家・下野】	1.運動負荷試験を対象別に実施できるようになる。 2.基本的には異常心電図を判別できるようになる。 3.運動負荷試験の事故発生に対して適切な処置がとれるようになる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	運動プログラムの管理	3年生	後	本授業は健康運動指導士にとって必要な健診結果の読み方、メディカルチェック、心電図の読み方、生活習慣病改善のための運動プログラムの作成の理論、服薬者の運動プログラムに関する基礎知識の習得と具体的な運用法について学ぶ。	・健康診断(含・特定健診)、メディカルチェックの内容および重要性を理解する。 ・心電図の基本的特性および重要性を理解する。 ・メタボリックシンドロームおよび各種生活習慣病予防・改善に向けた運動プログラムが作成できる。 ・服薬者の運動管理ができるようになる。	○	◎	○
専攻 コース 科目	介護と福祉のフィットネスプログラム	3年生	後	本授業は介護予防のための運動やレクリエーションに対する考え方から実践までを学びます。また、高齢者を対象に運動プログラムの知識と技術を幅広く学びます。【担当：清家、花田】	・介護予防事業の体力測定評価を実践することができる。 ・対象や目的に合わせた運動プログラムを立てることができる。 ・対象や目的に合わせたレクリエーション活動のプログラムを立案、実施することができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	健康栄養指導演習	3年生	後	健康を保持・増進し、疾病を予防あるいは治療する上で運動とともに食事の果たす役割は非常に大きい。生活習慣病予防や有疾患者に対する運動指導においても、その効果を発揮するためには食生活への指導が不可欠である。本演習は栄養指導能力向上のため、前半は健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士養成カリキュラムのテキストに準じて授業を進め、後半はフードモデルによる演習を重視する。	ヒトのライフステージごとに、食生活を通して健康を保持・増進するために必要な理論および実践的な知識や技法を習得し、健康づくりのための栄養・食生活の助言ができる。		◎	○
専攻 コース 科目	アクアエクササイズ	2年生	後	フィットネスクラブ、民間企業、病院内でマタニティの方、リハビリ目的、高齢者、スポーツ愛好者など様々な方に指導を行ってきた経験を活かした授業を展開する。健康・体力づくりの指導を、プールという環境を利用し、水の特性を理解した上で、ウォーミングアップ、有酸素運動、筋力トレーニング、リラクゼーション、レクリエーションを水中ウォーキングや音楽に合わせて行う、アクアダンスエクササイズの体験を行い、その中でも水中ウォーキング、水中レジスタンス、アクアダンスをメインに学び、実演、指導を出来るようにする。	・水中で行うエクササイズのパログラムを作成することが出来る。 ・水中で運動を行っている方を、陸の上から実演し、指導することができる。 ・健康運動実践指導者、日本フィットネス協会のアクアエクササイズ実技試験合格レベルの実演、指導を習得を目指す。	◎	○	○
専攻 コース 科目	エアロビックエクササイズ	3年生	前	フィットネスクラブ、民間企業、病院、福岡市健康づくり講座講師など、親子フィットネス、マタニティエクササイズ、リハビリ、スポーツ愛好者など、エアロビックダンスを用いて、色々な現場で指導してきた経験を活かした授業を展開する。様々な対象者に合わせたクラスに対応できるような運動強度の変化を学び、エアロビックダンスの中でもメインエクササイズのパログラム法を中心に学ぶ。同時にエアロビックダンスIで取得している、動作や指導スキルも高め、インストラクターとして総合的にレベルを高めていく。	・安全で効果的なプログラムを作成、実演、指導できるように学ぶ。 ・エアロビックダンスの楽しさを伝えられる指導力を身につけ、グループエクササイズでありながらも、参加者一人一人にあった指導が出来るようになる。 ・日本フィットネス協会(GFI)のエアロビックダンスエクササイズインストラクター取得レベルまで仕上げる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	健康産業施設実習	3-4年生	前	夏期休暇を中心として10日間のインターンシップを実施する。実習先は健康運動指導士が在籍するスポーツクラブ、メディカル施設等の健康産業施設とする。実習内容は、運動プログラム作成、運動指導及び指導補助、施設管理、事業運営など現場で行われているすべての業務とする。	実習を遂行し、報告書としてまとめることができる。まとめた内容を人前で発表・報告することができる。		◎	○
専攻 コース 科目	スポーツ政策各論	2年生	前	国や地方公共団体のスポーツ政策に関わる様々な社会現象や国内外の動向を概観した上で、スポーツ政策とその背景にある理論や科学的エビデンスについて解説を行う。加えて、文部科学省及び地方公共団体のスポーツ推進事業の動向について理解を深めると同時に、日本国内で開催予定の国際的大規模スポーツイベントの準備状況等を観察しながら、イベントの成功に向けた政策課題について学ぶ。	・国及び地方公共団体のスポーツ政策の現状と課題についての説明ができる。 ・スポーツに関する他の施策・事業について理解することができる	◎	○	○
専攻 コース 科目	スポーツ組織論	2年生	前	近年、スポーツ界においても組織力を高めることが指摘されている。これまでのスポーツは属人的組織が多く、例えばチームなどの場合は指導者に意思決定を委ねたり、協会的な組織も一部の人材によって意思決定が行われるなどしている。そこで、本授業では担当教員自身がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会に従事(15年)した経験を活かし、スポーツ人における組織づくりを学んでいく。	1. 組織論を理解し、個人としての自分と組織人としての自分を認識することができる 2. スポーツ組織の社会的な課題を指摘し、解決策を立てることができる 3. 組織におけるコミュニケーションスキルを身につけることができる	○	○	◎

専攻 コース 科目	地域スポーツ政策演習	2年生	後	スポーツ政策の分野は量的にも質的にも、その研究は著しく少ないと指摘されている。実際の行政政策の場においても、その専門家が存在することは皆無に等しい。各分野の専門家は存在しても、政策の専門家がコーディネートすることは少なく、またソーシャルアイデアとして政策を策定することも難しい。授業は担当教員がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)し、行政政策に関わった経験を活かしながら展開する。	1. 地域スポーツ政策の実際を学び理解することができる 2. スポーツプロダクトとしてのソーシャルアイデアを学び、自身で計画できる 3. 我が国に必要なスポーツ政策を立案できる	○	◎	○
専攻 コース 科目	地域スポーツ指導実習	4年生	前	現在、地域スポーツの具体的な形として総合型地域スポーツクラブが構想されている。しかしながら、この構想は理想的な考え方の蓄積はあるものの、具体的な事業の組み立てや構想されているNPO法人の手続きについては各地域やクラブの自助努力に任されている。そこで本授業は具体的なスポーツ系NPO法人の申請や管理運営の実際、またフレームワークとしての事業計画(ビジネスモデル)の構築を行っていく。授業は担当教員がスポーツNPO法人の代表理事(20年)と日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)し、行政政策に関わった経験を活かしながら展開する。	1. 総合型地域スポーツクラブの設立と運営について具体的な書類を作ることができる 2. 事業をスポーツプロダクトとしてとらえ、具体的な事業計画(ビジネスモデル)を作ることができる 3. NPO法人の具体的な書類を作ることができる	◎	○	○
専攻 コース 科目	生涯スポーツ論	2年生	前	本授業では、生涯学習の視点からスポーツとすべての世代との関係性を検討する。その際、ライフステージを通じたスポーツの享受と社会全体における多様な機会、例えば、学校教育、成人教育、高齢者対象のプログラム、地域社会でのスポーツクラブでのスポーツ環境の重要性について学ぶことを目的とする。	(1)生涯スポーツに関する基礎基本を理解し、説明ができる。(2)各ライフステージにおける生涯スポーツの重要性を理解し、説明ができる。(3)地域社会を基盤としたスポーツ振興の重要性について理解し、説明ができる。	○	◎	○
専攻 コース 科目	生涯学習と社会体育	2年生	後	生涯スポーツ及び社会体育の概念や意義(使命と役割)を理解しながら少子高齢化や国民の健康スポーツに関するニーズを踏まえて、その実現に寄与できる知識と態度を涵養する。また生涯スポーツ及び社会体育を効果的に実現するための行政の在り方について、各機能相互の連携・協働とその体系化について学ぶとともに、東京オリンピック・パラリンピックを契機に注目を集めているパラスポーツ(障がい者スポーツ)の視点から生涯スポーツ及び社会体育における人権意識の涵養についても講義する。	①生涯スポーツ及び社会体育の概念について理解し、説明できる。②生涯スポーツ及び社会体育の意義について理解し、説明できる。③生涯スポーツ及び社会体育の関係性について理解し、説明できる。④生涯スポーツ及び社会体育と行政(生涯学習行政、社会教育行政)との連携・協働について理解し、説明できる。⑤生涯スポーツ及び社会体育と人権の関係性について理解し、説明できる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	生涯スポーツと社会体育の指導者	3年生	前	国民の誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現が求められている。本授業では、社会体育行政職員の経験を持つ総合型地域スポーツクラブ役員の担当教員が、地域住民の多様なニーズに対応できる生涯スポーツ・社会体育指導者養成の一環として、基本的な概念の理解や資質・能力を高めることをねらいとして授業を展開する。	①生涯学習時代における生涯スポーツ・社会体育の位置づけや役割、法的根拠、考え方の変遷について説明することができる。②青少年、成人、高齢者等それぞれの特性、指導方法について理解を深め、指導の方法・形態について説明することができる。③生涯スポーツ・社会体育指導者の専門職員に求められる資質・能力や役割について説明する事ができる。④総合型地域スポーツクラブの意義や現状と課題について説明し、解決策を提示することができる。⑤指導者としての自己理解を深め、人前で表現することができる。	○	○	◎
専攻 コース 科目	生涯スポーツと社会体育の計画・立案	3年生	後	生涯学習と社会教育の中で、生涯スポーツと社会体育の果たす役割を理解する。その上で、社会のニーズに対応する計画・立案の考え方、方法等の概要を理解する。本授業では、社会体育行政職員の経験を持つ総合型地域スポーツクラブ役員の担当教員が、地域住民の多様なニーズに対応できる生涯スポーツ・社会体育指導者養成の一環として、基本的な概念の理解や資質・能力を高めることをねらいとして授業を展開する。	生涯学習と社会教育全般の意義と役割を理解した上で、生涯スポーツ・社会体育の果たす意義と役割を理解し、社会のニーズに対応した個別事業計画・学習展開計画を実際に立案できる。①生涯スポーツ・社会体育の行政上の位置づけと意義について説明することができる。②計画立案をする際の社会的ニーズについて説明できる。③計画立案の手順についてポイントを記述することができる。④実際の個別事業計画を参考にして、自分が関心あるテーマの個別事業計画を作成できる。⑤グループワーク・討議や発表を通して、問題解決型の計画・立案ができる。	○	◎	○
専攻 コース 科目	生涯スポーツと社会体育の経営	3年生	後	生涯スポーツにおける社会的課題について、情報を収集するとともに理解を深める。生涯スポーツにおける経営について、ケーススタディを活用した討論を実施する。	・生涯スポーツについての社会的意義を説明できる・生涯スポーツ振興施策を経営的視点でとらえることができる	○	◎	○
専攻 コース 科目	スポーツ社会教育演習	4年生	前	社会教育主事任用資格の養成科目である。市町村段階におけるスポーツ施策の概要把握、市町村の資料を収集し、年間事業計画・個別事業計画等の企画立案をする。演習を通じて、社会教育の現場を把握する手順及び手法を学び、社会教育主事として実践力を身につけることを目標とする。	①社会教育主事に必要な現場実践力を身につけることができる。②市町村の社会体育・生涯スポーツに関する概要を把握し、必要な資料収集ができる。③収集した資料に基づき、年間計画を立てることができる。④個別事業計画を立てることができる。⑤社会教育事業のPRのため、事業のチラシ(パンフレット)が作成できる。	◎	○	○

専攻 コース 科目	スポーツ社会教育実習	3年生	前	講義・演習で学んだ知識を社会体育の現場で理解を深めるとともに、学習活動に参加することにより、教室では得ることのできない体験の機会を持つことがねらいである。実習先は教育委員会、自治体及び民間の社会体育施設等とする。	①地域の人々とコミュニケーションを図ることができる。②履歴書・エントリーシート等実習先への提出に必要な書類を作成できる。③実習を希望する施設と交渉し、承諾を取ることができる。④実習先の指示に従いながら現場で実習することができる。⑤実習日誌を通して自分の体験したことを文章にまとめ、報告することができる。⑥実習内容をプレゼンテーションすることができる。	◎	○	○
専攻 コース 科目	生涯学習支援方法論	3年生	前	生涯学習支援について、効果的な学習支援の方法、学習プログラムの作り方、参加型学習の実際とファシリテーションのスキルについて、実践的な授業を展開する。国内外における地方公共団体が展開する先進的な事例をもとに、実践的な知識を伝授する。	・生涯学習の意義を理解できる ・学習者の特性に応じたプログラムを作成することができる ・ワークショップなどにおいて、適切なファシリテーションができる	○	◎	○
専攻 コース 科目	ボランティア活動と生涯スポーツ	3年生	後	生涯スポーツに関するボランティア活動をすることの個人的な意義、例えば自己開発や人々の生涯スポーツを支援することにもつながっていることを認識し、その結果として生涯スポーツの振興が図られていることについての理解を深める。	①生涯スポーツに関するボランティア活動における個人的な意義を理解できる。②生涯スポーツにおけるボランティア活動が自己開発や自己実現に効果があり、かつ他者の生涯スポーツの支援につながっていることが理解できる。③スポーツボランティアの活動が生涯スポーツの振興に寄与していることを理解することができる。	◎	○	○
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。	○等速性筋力測定器(サイベックス)が使用できるようになる。○キネアライザー等の分析ソフトが使用でき、分析に必要な作図ができるようになる。○各自のテーマに沿った文献を収集することができるようになる。	○	○	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本演習は、卒業研究を作成するための基礎的能力を養い、研究の方向性を明確にすることを目的とする。前期は、論文を収集し講読することにより専門分野への理解を深める。また、運動生理・バイオメカニクス分野の実験方法とデータの解析方法を学ぶ。後期は、先行研究を詳細に検討し予備実験を実施、自らの研究計画を取りまとめる。	①収集した先行研究を要約し、概要をまとめることができる。②自ら研究計画をとりまとめ、発表することができる。	○	○	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツゼミナールでは、卒業研究に向けたスポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を習得する。	研究論文作成に関わる能力を習得する。研究論文テーマの設定ができる。テーマ設定の理由が説明できる。研究目的を箇条書きで示すことができる。先行研究の文献検索ができる。	○	○	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツの世界における栄養指導の理想は、スポーツ選手の食事調査を行い問題点を把握し一介人指導を行い改善結果を得ることである。卒業研究に向けて、食事調査手法の検討とともに栄養学の知識を修得し、栄養指導のできるスポーツ指導者やトレーナーを目指す礎を作ることを本演習の目的とする。	研究をデザインすることの意義が理解できる。栄養素の基礎を理解し、説明できる。食事調査結果から問題点の把握ができる。		○	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツ科学の研究分野で用いられる主要な測定法について実習を行い、データを取得し、データ処理、プレゼンテーション資料の作成を行うことができるようにする。実験計画からデータ取得、データ解析の過程を経験することにより、卒業研究を自力で進めるための力を身につけることを目指す。	身体の形態や機能を数値化するため、実験機材の使用法を身につけること。取得したデータを解析し、その意味を理解するとともに他者に対して説明できること。データの意味を解釈し、プレゼンテーションを行うことができること。			◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	4年次に行う卒業論文執筆・発表に向けて、前期は学術的文章の書き方、後期は研究論文の書き方を中心に解説する。前・後期を通じてグループワークで課題に取り組み意見や主張を述べるトレーニングを行う。加えて、レポート作成、発表スライド作成、プレゼンテーションを行い、論文作成・発表に必要な能力を養う。	・信頼性の高い文献やデータを取得し、正確に内容を解釈することができる。・研究論文の価値や意義を説明できる。・要点をまとめ、明解な文書を作成できる。・プレゼンテーションを行い質疑応答に対応できる。・自身のスポーツを検討し課題を発見することができる。・自身の意見を述べ、他者を尊重し意見を聞くことができる。・研究倫理を理解することで、倫理観を高めることができる。	○	○	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツゼミナールの目的は、卒業研究を進めていく上での基礎的能力を修得し卒業研究テーマの方向性を見出すことである。教員やゼミメンバーとのディスカッションを重ねることにより、自身の関心ある研究分野を見つけ深く掘り下げていく。アダプテッド・スポーツ、発達障がい児のスポーツ支援、児童/幼児の運動能力に関する研究を主な対象とする。	<知識・技能>自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。<思考力・判断力・表現力>興味のある学術論文を要約し、その内容を他者へ簡潔に伝えることができる。<主体性・協働性>興味のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。卒業研究テーマの方向性を示すことができる。	○	○	◎
専門 演習 科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	前期のスポーツゼミナールでは、卒業研究作成の基礎構築を目的とする。スポーツを中心に据え、社会教育・生涯学習・スポーツ行政の視点から関連性をテーマに各自の問題意識を深めていく。具体的には各自のテーマ設定、研究方法、先行研究について講義、ゼミ生の調査、プレゼンテーション、討論を通して進めていく。後期のスポーツゼミナールでは本格的に卒業研究に取り組む。	①スポーツと社会教育・生涯学習・スポーツ行政の関連性を把握することができる。②スポーツを活用することによる社会の発展を構想することができる。③スポーツを活用することによる各自の構想を実践する見直しを持つことができる。④論文執筆に向けて、思考力や表現力を高めることができる。	○	○	◎

専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	前期はスポーツ心理学の基本的知識を幅広く概観・学習し、各自の心理学領域における興味・関心を高めていく。具体的には課題図書の内容を輪読を中心に行いながら各自が概要をまとめ、自身の考えを纏り込みながら互いに発表しあう。それにより自らの興味・関心を浮き彫りにしていくと同時に、論理的思考能力を養っていく。後期は前期で培った心理学的なものを見方、事象の捉え方を基に各自が興味・関心のある原著論文を選択しレジュメにまとめて発表することにより、具体的な心理学的研究法について学んでいく。またディスカッションを通して、他人の考えを理解し自身の考えを深めていくことにより、論理的思考能力をより一層高めていくことを目指す。	前期 1. 課題図書、文献の概要について簡潔にまとめることができる。 2. 課題図書、文献の内容について理解するとともに自身の考えを述べることができる。 3. 心理学的なものを見方、臨床学的な事象の捉え方について理解し、自身の日常場面に取り入れることができる。 4. 心理学領域における自身の興味・関心を述べるができる。 後期 1. 自身の興味・関心に根拠した文献を探し出すことができる。 2. 研究論文をレジュメにまとめ、その内容を理解し、他人にわかりやすく説明することができる。 3. 文献購読を通して、心理学的研究の方法論について説明することができる。 4. 心理学領域における自身の興味・関心を述べるができる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本授業では、各専門科目においてアスリートのスキル及びパフォーマンス向上のために必要な基礎知識と科学的理論を学ぶことを目的とする。また情報収集、分析、効果的なフィードバック等、スポーツ現場におけるコーチング学、トレーニング科学を実践的に学ぶ過程でスポーツを支える側(コーチ、アナリスト)の役割や環境整備についても学習する。	各専門科目においてその競技特性、指導法、ゲーム分析方法について理解し、説明出来るようになる。またスポーツや運動を科学的に分析することを通して論理的思考力を身に付け発揮出来るようになる。			◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。スポーツ学演習では、バスケットボールを中心とした戦術・戦略を理解し、卒業研究に向けた基礎知識を学習する。授業は主に自分で調べた文献の内容を理解し、他の受講者に説明し、質疑応答を行う。研究の目的、進め方、文献検索、課題、問題点を明確にして発表できるようにする。	1)スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を習得する。 2)卒業研究に向けたテーマの探索。 3)文献の内容を理解し、自身の考えを述べるができる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	アスレティックトレーニング領域を中心としたスポーツ科学に関する知識・技術を幅広く身につけることを目的とする。 また、卒業研究に向けて自身の研究計画を作成できるようにするために研究手法や実験方法について具体例をあげながら説明する。	アスレティックトレーナーやスポーツ指導者として必要な知識と技術を習得することが出来る。 また、学びを通して研究課題を設定し、研究計画を作成することが出来る。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツゼミナールの目的は、卒業研究を進めていく上での基礎的能力を修得し卒業研究テーマの方向性を見出すことである。 教員やゼミメンバーとのディスカッションを重ねることにより、自身の関心のある研究分野を見つけていく。 スポーツ栄養学・運動生理学に関する研究を主な対象とする。	学術論文の作成に関わる知識を習得する。 興味のある学術論文を取り上げ、その内容を理解することが出来る。 興味のある学術論文を取り上げ、その内容を他者へ簡潔に伝えることが出来る。 統計解析の手法を理解できる。 卒業研究テーマの方向性を示すことが出来る。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本授業におけるスポーツゼミナールでは、バレーボール競技を中心とした競技特性と基本的な戦術行動を解説し、自身の競技実践を通して競技力向上に関わる実態を把握し課題の解決に向けた実践的側面から考究する。	①バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。 ②収集した先行研究・資料をまとめることができる。 ③競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。 ④バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。			◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	アスレティックトレーニング領域を中心に基礎的な理論習得と実践活動を通しての技術習得を目的とする。特に積極的な演習への参加を通じて、自身の活動からの学びを重視する。また、4年次の卒業研究論文作成の基礎的な準備として論文検索やデータ収集・処理の方法を学ぶ。その他、グループごとに立てた目的に対して実験(調査)、分析、発表を行い卒業研究に向けた予備学習を行う。	スポーツ指導者ならびにアスレティックトレーナーとして必要な知識と技術を習得することが出来る。 学習を通じて自身の課題や目標を明確にする素養を身に付けることが出来る。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツ科学(サッカー)の分野に適した試合の録画・分析法を学ぶ。また、この分野での最先端の知識を身に着けるとともに、学術論文の書き方やプレゼンする方法を学習することを目的とする。	(1)サッカーの試合の録画・分析法を習得する (2)スポーツ科学(サッカー)の分野の最先端の知識を習得する (3)パワーポイントによるプレゼンする方法を習得する (4)学術論文の書き方を学習する	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	4年次に行く卒業研究に向けて、研究の手法や発表の方法を学ぶとともに、先行研究を調べながら、自分の関心あるテーマについて深く掘り下げていく。心理学や教育に関わる領域を中心に、それぞれの研究の方向性を決めていく。	【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。 【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。 【主体性・協働性】関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本授業では、スポーツ方法学・コーチング学に基づき、競技現場における科学的サポートや測定評価の方法とその分析方法を学び、4年生における卒業研究に向けた基礎知識を得ることを目的とする。	1. 科学サポート・測定評価法・データ分析法を習得する。 2. 分析したデータについて考察することができる。 3. 各自興味のある分野について資料を収集する。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	卒業研究に取り組むにあたって求められる基礎知識の習得を目指し、実践現場(コーチング、トレーニング)に活かすことのできる人材育成を目的とする。研究領域は、主に陸上競技(トラック種目)のコーチング論・トレーニング学である。ここでは、自身のコーチング・トレーニング実践を通して感じた①素朴な疑問を見つけ、②その疑問の実態を把握し、③疑問に対する仮説を立て、④仮説を立証する研究方法を調べるができるようになることを求める。	① コーチング論・トレーニング学(陸上競技)に関連する先行研究・資料を収集できる。 ② 収集した先行研究・資料を要約することができる。 ③ 自分自身のトレーニング実践を振り返り、自身のトレーニング課題やトレーニング実施上の問題点を明らかにすることができる。	○	○	◎



専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本ゼミナールでは、地方自治体におけるスポーツ政策に関わるスポーツ参画人口の拡大、スポーツを通じた健康増進の意義、スポーツイベントがもたらす「便益」等に代表される自治体スポーツ行政が重要視するテーマを取り上げ、諸行動や社会現象を客観的事実から解明するための方法論を学ぶ。卒業研究の実施する上で「研究テーマの見つけ方」「データ収集・分析」「レジュメやレポートの書き方」「プレゼンテーションの方法」に関する実践的な知識やスキル習得する。さらに、これまで自身が習得した知識をもとに受講生が相互に学び合うグループディスカッションを実施し、卒業論文の構想計画についてのプレゼンテーションを行う。	・スポーツ政策に携わる人材に求められる「地域が抱える課題を特定する力」「課題解決に向けた提案を行うためのプレゼンテーションスキル」を身につける。・受講生一人一人とのコミュニケーションを通じて、自分自身が認識する「自治体スポーツ行政が抱える課題」や「その課題を解決するための策」を、自身の言葉で説明できるような論理的な思考力を習得する。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	卒業研究(陸上競技の中でもフィールド種目を中心とした分野)に取り組みにあたり、陸上競技の特性や基本的な競技力向上に関わる動作やトレーニング・コーチングについての先行研究を抄読し、理解を深める。またスポーツ科学で解明されている先行研究と現場のコーチングや競技者の意識や感覚の違いを調査し、理解する。	(1)スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身につける。(2)投擲映像を見ながら、自身の投擲技術について他者に解説することができる。(3)投擲競技に関する文献などの研究資料を収集できる。(4)収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を示すことができる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	4年次に取り組む卒業研究に向けて、スポーツ政策・社会学・マネジメント分野での研究・発表方法を学ぶ。これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会で従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。	・自身に興味のあるスポーツ分野を客観的な視点で捉え、文献に沿って説明できるようになる。・その文献からスライドを作成し、ゼミ内でプレゼンテーションできるようになる。・ゼミにおいて、何らかの実践的な活動を行い、その体験を文書化できるようになる	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	授業(保健体育)やコーチングの現場において、教師・指導者は生徒・選手に対して様々な指導やアプローチを行っている。このことから教師・指導者について様々な観点から分析を行い、指導現場に活かすことが重要である。本演習では、保健体育科教員や部活動指導者の現状や問題点を明らかにし、教員や指導者に必要な資質や能力など、指導現場に必要な要素について理解を深めることを目的とする。	・興味のある分野の資料を収集することができる。・収集した資料をまとめ、現状や問題点をまとめることができる。・論理的なプレゼンテーション・ディスカッションができるようになる。・WordやExcel、PowerPointの基本的な操作ができるようになる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	学校体育を中心とした諸問題や、体育授業の観察評価方法、教材開発の手法等を学び、4年生における卒業研究に向けた基礎的な知識を得ることを目的とする。	1. 学校体育を中心とした諸問題を理解し、各自で問題設定しプレゼンできる。2. 体育授業の観察評価方法を習得し、実際の体育授業や模擬授業を観察評価、考察できる。3. 体育授業における教材を提案し、学習効果を考察できる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	スポーツ現場でアスレティックトレーナーとして選手のリコンディショニングや安全管理を行った経験を活かし、現場力のあるアスレティックトレーナーを育てるために実践形式で授業を行う。①アスレティックトレーナーに必要なヒューマンスキルやトレーナーの知識やスキルを身につけた社会人を育てる。②学生アスレティックトレーナーとしての実践的な活動を通して疑問や課題をみつけ、それらの解決に向けた情報収集や調査、実験を行う。③4年次の卒業研究に向けて必要な研究方法、発表方法などを学ぶ。	①アスレティックトレーナーとしての必要なヒューマンスキルを身につけることができる。②様々な現場でアスレティックトレーナーの知識やスキルを使うことができる。③学生アスレティックトレーナーとしての活動を通して疑問や課題を見つけることができ、それらの解決のために必要な研究方法を実践できる。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	4年次に取り組む卒業研究に向けて、体育・スポーツ科学分野、特に学校教育現場の事象に関わった様々な研究・発表方法を学ぶ。自身の興味のある分野に関する情報収集を行い、プレゼンテーションする能力を高める。	自身の興味のある分野、スポーツ科学に関する分野で、どのような研究が行われているかを学ぶ。また、文献や、各種データ収集方法について、自身で調査し、検索する能力を高める。さらに、自身の意見を発表し、他人とのディスカッションを積極的に行う能力を高める。	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本ゼミナールでは「保健の授業」あるいは「学校保健」をテーマとし、卒業研究を行っていくうえでの基礎的な知識の理解を目指します。なかでも、中学校・高等学校における「保健の授業」の動向・具体的な研究例を通して、調べてみたいことや検証したいことを発見し、それを検証・報告するためのスキルを学びます。	①「保健の授業」や「学校保健」について、基本的な事項を理解できること ②基本的な事項を踏まえて、自分自身で検証したい問いを見つけられること ③自分が持つ問いを検証するために必要な手段を理解できること ④自分自身が明らかにできたことをプレゼンテーションできること	○	○	◎
専門演習科目	スポーツゼミナール	3年生	通年	本スポーツゼミナールは担当教員のアスレティックトレーナーとしての現場経験を活かし、アスレティックトレーナーとして必要な知識・技術を深めることを目的とする。①実践的な演習を中心にアスレティックトレーナーとして必要な基礎知識・技術の習得を目指す ②自身の活動の中で生じた疑問や課題を解決する為に必要な情報収集、調査、実験の方法を学ぶ ③4年次の卒業研究論文作成に向け、研究方法やプレゼンテーションスキルを学ぶ	①アスレティックトレーナーとして必要な基礎知識・技術を習得する ②自身の活動で生じる疑問や課題解決のため、適切に情報・環境を活用し、論理的に考え実行する素養を身につける	○	○	◎

専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツの世界において競技者の競技能力向上や傷害予防の立場から、体力や運動能力に関する様々な測定が行われるようになった。本演習では科学的サポートを行うための基礎として、筋力やパワーの測定法を享受しながら、到達目標を達成できるよう授業時間外においても継続的に指導、支援する。	○ 実験に必要な機器を自由自在に扱うことができるようになること。○ 分析ソフト(キネアナライザー)で多様な分析ができるようになること。○ 仮説に基づいた論理的な検証、思考ができるようになること。○ 卒業論文の作成を通して体系的、理論的な思考ができるようになること。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	大学生の授業で学んだことを元に、スポーツゼミナールで考えた自らの課題に対し、具体的なテーマを決定し、先行研究を行い、課題解決に応じた方法を用い分析を行う。後半は前の15回の卒業研究で取り組んだことを元に、自らの課題解決に向けた論文執筆を行う。さらに、完成した論文を端的に発表できるようプレゼンテーションの準備を行う。種々の取り組みは、各回の授業時間だけで終わらせることは難しいため、予復修課題としても資料の収集等、各自の進捗状況に応じて総じて各回240分程度を目安に、授業外での取り組みを行うこと。	1 教育事象、指導方法等、各自の経験から課題を見出し、研究テーマの立案ができる。2 考えた研究テーマの解決のための先行研究やそれに向けた研究計画を立てることができる。3 研究計画にもとづき各種のデータを取得し、それらを分析することができる。4 立案した研究テーマを研究計画にしたがい論文にすることができる。5 卒業論文をまとめ、誰しもが理解できるようにプレゼンテーション資料にまとめることができる。6 作成したプレゼンテーションを発表することができる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	卒業論文の完成と発表に向け、前期はディベート開催を通じて論文作成手法を学ぶ。加えて、興味のある分野の先行研究を批判的に解釈することで、自らの研究テーマを絞り込み、論文の流れをプレゼンテーションで洗練させ、研究計画書を作成する。後期はスポーツゼミナールで培った論文作成能力を生かし論文の執筆作業を行い、卒業研究発表会で発表する。	・アイディアを効果的に生み出す方法を理解し、実践することができる。・学習内容を総合的・体系的に整理して説明することができる。・自ら課題を発見し、解決することができる。・自身の意見を主張し、他者の意見と比較検討することで新たな考え方を導き出すことができる。・研究倫理を理解し、実践することで、倫理観を高めることができる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学んだ知識・技能を基に、自らの研究テーマを論文にまとめ発表する。	①自らの研究テーマを科学的な方法に従い研究論文にまとめることができる。②論文を明快且つ簡潔に発表することができる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	3年次のスポーツゼミナールを通じて学んだことを土台として、研究テーマに沿って調査および解析を進めていく。その流れの中で関連する分野(統計学など)の学習も深めていく。他者の研究内容についても関心を持ち、自らのテーマに応用できそうな項目を見出す。論文を完成させること、研究発表用資料の作成を行う。他者の研究内容に疑問をできるように、幅広い学びを行う。	①テーマ設定の合理性を説明できる ②論文骨子の構築の妥当性を説明できる ③どこまでを明らかにしようとするのかについて説明できる ④先行研究との関連性について説明できる ⑤論文の作成ができる ⑥発表用資料の作成ができる ⑦一般の人が聞いても理解できる表現ができる	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールの内容を元に研究計画を立案する。計画に基づき調査等を行い、必要に応じてデータ処理を行う等して論文に仕上げていく。	研究論文の構成を正しく理解し、自らのテーマを研究論文にまとめることができる。研究成果をプレゼンテーションできる。		○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツ学演習で学んだ研究計画、実験、データ分析の手法を用い、自らテーマを設定し、卒業論文を作成することを目指す。本演習では研究テーマの設定、文献収集、調査・データ収集、データ分析、論文執筆の一連の過程を独力で成し遂げられるようにする(共同研究は原則として行わない)。	卒業研究のテーマ設定において研究課題の問題点を説明できること。データ収集のための実験を自らの力で遂行することができる。データを分析し、適切な図表にまとめることができる。論文作成に関わる形式、内容を覚え、適切な文章を書くことができる。自ら設定した研究テーマについて、その意味や意義を他者に説明することができる。			◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールの内容を踏まえ、アスレティックトレーニング分野に関するテーマを中心に各自テーマを設定する。その上で事前の調査、プレ実験、実験、考察を経て卒業論文の作成を行う。また、他者へ自身の研究内容を伝えるためのプレゼンテーションスキルも学習する。指導にあたっては、担当教員自身のアスレティックトレーナーとしての経験を活かし実践的な内容を展開する。	卒業論文のテーマを設定し、適切な手順に則って成果を論文としてまとめる。また、研究成果を他者へ伝えるためのプレゼンテーションスキルを習得する。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナール(前期)・(後期)で習得した研究の手順及び手法を基礎にして研究を進め、自ら定めた研究課題に関して分析・検討・考察を行い研究を深めていく。また研究テーマ・論文構成(章立て)・研究方法などについて、毎週の授業での発表と合評を踏まえ各自の論文作成の進捗状況を確認する。	①研究テーマの設定、論文構成(章立て)、研究方法等について深めることができる。②見通しをもって、着実に研究を進めることができる。③毎週の授業での発表と合評で研究内容をより充実させていくことができる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	卒業研究では、スポーツゼミナールの学習内容を踏まえ、専門分野における競技特性や競技力向上についての研究を展開する。また研究テーマを設定し、調査、実験、分析、考察を行い卒業論文としてまとめ、内容を卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる力を養成する。	①各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。②その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者に伝える技術を身につける。			◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	プロバスケットボール選手としての経験を活かし、授業を展開する。卒業研究では、スポーツゼミナールで得た知識をもとに卒業研究に向けたテーマを具体化にして、予備実験を実施する。また研究テーマをもとにプレゼンが実施できる知識を身につける。	I)論文の構成 II)研究テーマを題材にしてプレゼンテーション III)研究結果を考察して論文に出来る	○	○	◎

専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	3年次までに学んだスポーツ心理学に関する知識を総合して、各自の興味関心のあるテーマに沿った卒業論文の作成及び、口頭発表の方法について習得する。スポーツゼミナールで学んだ基礎知識を活かし、資料の収集や調査、パーソナリティの分析や心理学実験による解析、メンタルトレーニングの実践など、スポーツ事象への心理学的アプローチを通して、研究成果をまとめ論文として完成させる。	1.研究論文の作成手順を理解し自らの関心に沿った研究テーマを設定することができる。 2.テーマを探索するための研究計画を立て、実行することができる。 3.探求した内容について、研究論文としての体裁を整えて作成することができる。 4.自身の研究内容について、わかりやすくプレゼンテーションすることができる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	本科目では、先行研究から仮説を導出し、それを論証することを目指します。そのために必要な、知識やスキルを学びつつ、その成果を卒業論文として提出してもらいます。	・先行研究から仮説を導出できる ・導出して仮説を検証するための研究デザインを構築できる ・実行した研究において明らかになったことを適切にまとめられる	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで決定した研究の方向性を基に、実験・論文執筆を行う。また、中間発表会及び卒業論文発表会へ向けてプレゼンテーション能力を養う。	・各自で設定した研究計画を基に実験を実施する。(主に考える力・計画力が身につく) ・実験データを整理し、論文を執筆する。(主に論理的思考力が身につく) ・卒業論文発表会に向けてプレゼンテーション資料を作成できる。(主に伝える力が身につく)	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールの内容を踏まえ、アスレティックトレーニング領域を中心とした研究テーマを各自で設定し、調査・実験・考察を経て論文作成を行なう。また、作成した論文の内容をプレゼンテーションする技術を学ぶ。	各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。また、その研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者に伝える技術を身につけることを目標とする。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学修した知識と手法をもとに自ら研究テーマを設定し、論文を作成する。また、中間発表及び卒業論文発表会へ向けてプレゼンテーション能力を養う。	1. 設定した研究テーマに基づき調査を実施できる。 2. 研究結果を整理し、論文を作成できる。 3. 作成した論文をプレゼンテーション資料にまとめ、発表できる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	データ収集・分析を経て、卒業論文を作成し、それをパワーポイントにまとめた後、プレゼンテーションを行う。	(1)学術論文の作成方法を習得する (2)パワーポイントを使用した学術的なプレゼンテーションを行うことができるようになる	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールの学習内容を踏まえ、バレーボール競技の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく、研究指導を通して先行研究の文献抄読からコーチングや方法学に関する知識を深め、調査、分析、考察を行う。これらを卒業論文にまとめ、卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションにまとめる。	①バレーボール競技等に関する文献などの研究資料を収集できる。 ②収集した先行研究・資料をまとめることができる。 ③競技力向上における課題や問題点を明らかにすることができる。 ④バレーボール競技を研究教材として実践データを収集することができる。 ⑤スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を身につけることができる。			◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学修した知識と手法を基に自ら研究テーマを設定し、論文を作成する。また、中間発表会及び卒業論文発表会へ向けてプレゼンテーション能力を養う。	1. 各自で設定した研究テーマを基に実験(調査)を実施する。 2. 研究結果を整理し、論文を作成する。 3. 作成した論文を基にプレゼンテーション資料を作成する。 4. 卒業論文発表会にてプレゼンテーションできる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツ・ゼミナールの学習内容を踏まえ、コーチング・トレーニング論領域(主に陸上競技)に関する研究テーマを設定し、調査・実験・分析・考察を行う力を養成する。また、これらを卒業論文にまとめ、内容を卒業研究発表会に向けてプレゼンテーションを作成する養成する。	① 研究計画書を作成することができる ② 卒業論文を作成することができる ③ テーマに関する先行研究をまとめることができる ④ 適切な研究方法を用いてデータを収集・分析することができる ⑤ 卒業研究を発表することができる	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	3年次までに学んだ陸上競技(特にフィールド競技を中心とした運動法・トレーニング・コーチング)の特性や基本的な競技力向上について研究を展開していく。この科目では、論文講読、研究指導を通して、方法学・コーチングに関する知識を深め、文献のまとめ方や学外調査や測定の方法、結果の分析方法、得られた結果のプレゼンテーション方法などを修得する事を目的とする。また、報告会の実施、討論を繰り返すことにより、卒業研究の質を高める。	(1)スポーツ科学の基礎的な研究に関わる能力を実践できる。(2)自分の映像を見ながら、自身の技術について他者に解説することができる。(3)陸上競技に関する文献などの研究資料を収集できる。(4)収集した研究資料をまとめて、自身の興味のある論文テーマの方向性を説明できる。(5)実験やアンケートで得た結果を的確なデータとして処理ができる。(6)研究論文や発表資料を分かりやすく作成することができる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自ら研究テーマを選択し、実験や測定、調査に取り掛かり、卒業論文を完成させる。これまで企業外労働衛生機関のトレーナー業務(7年)やスポーツNPO法人の代表理事(20年)、日本スポーツ協会が推進する総合型地域スポーツクラブのクラブアドバイザーを福岡県体育協会にて従事(15年)した経験などを活かし、幅広い視野で指導を行う。	・自身のテーマを、科学的手法に沿って、分析できるようになる。 ・自身のテーマを、客観的かつ具体的に説明できるようになる。 ・他人の研究に対して、客観的かつ具体的な意見を伝えることができる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学んだ手法・知識を活用して卒業研究に取り組む。研究テーマを選択し、データの収集、論文執筆を行う。	・研究テーマを設定し、科学的手法に沿って分析できるようになる。 ・論文の構成を覚え、文章を書くことができる。 ・自身の研究内容を発表するためのプレゼンテーション技能を身につける。	○	○	◎

専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	アスレティックトレーニング領域を中心とした研究テーマを各自で設定し、スポーツゼミナールで学んだ研究方法や実験方法を用いて自らの力で調査や実験を遂行することができる人材育成を目指す。また、自身の研究内容を他者に分かりやすく説明するためのプレゼンテーション資料作成や発表技術を身につけた人材育成を目指す。	各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を、自らの力で遂行することができる。研究成果を論文としてまとめることができる。研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者に分かりやすく説明することができる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツゼミナールで学んだ手法、知識を活用して卒業研究に取り組む。自らの研究テーマを絞り込み、調査や実験の計画・実施を行う。卒業論文作成に向けて、論文の骨子を作成する。	【知識・技能】自身が関心を持つテーマについて文献やデータを調べ、要点をまとめ、理解することができる。【思考力・判断力・表現力】先行研究を要約し、その内容を他者に伝えることができる。【主体性・協働性】関心のあるテーマについて自ら調べ、受講生同士で意見交換や協力をしながら、学ぶことができる。	○	○	◎
専門演習科目	卒業研究	4年生	通年	スポーツ現場でアスレティックトレーナーとして選手のリコンディショニングや安全管理を行った経験を活かし、スポーツ現場で活かせる論文の読み方や実験の方法を実践形式で行う。①アスレティックトレーニング領域に関する研究テーマを各自で設定し、調査や実験を経て論文作成を行う。②自身の行った研究についてわかりやすくプレゼンテーションする技術を学ぶ。	①各自で設定した研究テーマに関する調査や実験を行い、その成果を論文にまとめることができる。②研究成果を発表するためのプレゼンテーション資料を作成し、他者に分かりやすく伝えることができる。	○	○	◎
スポーツ実技科目	器械運動	2年生	前・後	器械運動(マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動、平均台運動)の技の基本技術と指導法について学習する。それぞれの技の運動構造を理解し、系統的・段階的に技を習得していく。また、安全に配慮し練習環境の工夫や補助法についても正しく理解する。	1.各種目の基本技ができるようになる。2.それぞれの技の基本技術を理解する。3.補助法について理解し、適切に実践できるようにする。	◎		○
スポーツ実技科目	陸上競技B	2年生	前・後	「陸上競技」は、「走る」「跳ぶ」「投げる」などの運動で構成され、記録に挑戦したり、相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。人間にとって単純な動作に見える走・跳・投にも、速く走る、遠くに跳ぶ、遠くに投げるための原理・原則が存在する。本授業においては、やり投げ(ジャバリックスロー)、走り高跳び、砲丸投げの各種目を取り上げ、その技能を高めるとともに、より良い動作の原理・原則を理解し、初心者指導法を学習する。	①実施する各種目の技能(記録)を一定水準まで到達させる。②実施する各種目の技能を高める方法を理解し、記録に挑戦できるようにする。③実施する各種目の初心者指導法を理解し、説明できるようにする。	◎	○	○
スポーツ実技科目	水泳	2年生	前・後	クロールおよび平泳ぎを中心に、続けて長く、または速く泳ぐための基本的技術および知識を習得する。また、水の特性を知り、水中で効率的に推進力を得る方法について、実技だけでなく視覚的教材も用いて理解を深める。さらに、基本的な泳法と水の特性に関する知識を応用して、水中・水上における事故防止のための安全管理についても学習する。	①クロール・平泳ぎ・背泳ぎ・バタフライの4泳法を習得する。②水上安全に関する知識を高める。③速く泳ぐことについては、50mクロールと50m平泳ぎを対象とし、男子でクロール50秒以内、平泳ぎ65秒以内、女子でクロール55秒以内、平泳ぎ70秒以内を目標とする。④長く泳ぐことについては、3分間泳を対象とし、男子で150m以上、女子で130m以上を目標とする。	◎	○	○
スポーツ実技科目	バレーボール	2年生	前・後	バレーボールは、競技スポーツとしてだけでなく生涯スポーツとしても広く親しまれ、ラリーゲームを通して高いコミュニケーション力が必要であることを理解し、他者との情報を共有しながら競技する重要性を学習する。また、バレーボールを実践する上で、必要な体力や動作分析を行い、運動の分析や観察力を養う方法についても学習する。	①バレーボール実践について初心者に教育的な原則を段階的に実技指導ができる。②他者との関わり合う技能を高め、チームで連携する技術を学び実践できる。③競技スポーツ、生涯スポーツとしてバレーボールの特徴を理解し、実践できる。	◎		
スポーツ実技科目	ハンドボール	3年生	前	ハンドボールは「走・跳・投」からなっており、これらを支える基礎体力の養成に十分役立つ教材である。また、比較的小さなボールを器用な手で扱えるため、誰でも容易にプレーできる特徴を持っている。本授業では、ハンドボールの歴史・特性・ルール及び審判法を実技の中で概説し、ゴール型ボールゲームとしての攻撃方法及び防御方法を指導する。また、国体やJOCハンドボールチームでの指導経験を活かし授業を展開する。	・ボールの扱いやパス、シュートといった基本技術を習得する。・基本技術をコンビネーションプレーへと応用できる。・ルールを理解し、ゲームに応用できる。	◎	○	○
スポーツ実技科目	ラグビー	3年生	前	ラグビーW杯2019日本大会において日本代表は予選プールを4連勝し、史上初のベスト8で大会を終えた。急成長を遂げる日本ラグビーは今や全世界からも注目される存在となった。日本ラグビーフットボール協会はDevelopment Program, Elite Program, Top Programの3つの指導プログラムの必要性を提唱しているが、カテゴリーやコンテキストにおけるコーチングの目的達成に向けて、一貫した指導が必要である。そこで本授業では、ラグビーの競技特性を理解し、パス、ラン、キックなどの基本動作を習得し、様々な状況に応じたプレー選択へと発展させ、実践的なスキル獲得のための指導法についても学んでいく。	・ラグビーの基本動作を習得し、ゲームで活用出来るようになる。・ポジションや役割を理解し、主体的に物事を考え、状況判断しプレーに参加出来るようになる。・段階的指導法を実践的に学ぶ過程で、自らの技術向上と実践的指導力を身に付ける。			◎

スポーツ実技科目	ソフトボール・野球	3年生	前・後	ソフトボールは投げる、打つ、走る、捕るなどの基本的運動が多く含まれるスポーツである。本授業では、ソフトボールの基本的な技術や戦術を説明し、その練習方法を紹介する。また、ゲームを通して、そのゲーム場面で起こる種々のプレイを実践展開する。ゲームを行う場合にはスコアを記入します。各自の打率や打点、失策の数、ファインプレーなどを用紙に記録し、集計します。	①ソフトボールの基本的技術や戦術、練習方法を習得すること。②集団競技として積極的に他者との関わりを持てるようになること。	◎	○	○
スポーツ実技科目	テニス	3年生	前・後	担当教員は、テニスプレーヤーとして多くの大会に出場した。この経験を元に競技レベルの実技解説と、初心者へむけた技術指導を行う。テニスは、複数の打法を組み合わせてゲームを楽しむスポーツである。従って、多数の動作を習得する必要があり、動作の分析や運動の仕組みを学習する。また、対戦相手が必要な競技特性から強度のコントロールを学ぶ必要がある。テニスを通じたコミュニケーション及び仲間との協調性も学び、生涯スポーツとしてテニスを続けられる技術習得を目指す。	本授業では、テニス技術を習得し、シングルス、ダブルスとテニスのゲームが出来るように学習する。1. テニス打法の習得、テニス動作の原則を理解すること 2. ルールを理解し、審判行為が出来るようになること 3. 生涯スポーツであるテニスの魅力を理解し、健康促進につながることを理解すること 4. 仲間とのコミュニケーションをとり、協調性を学ぶこと	○	◎	○
スポーツ実技科目	バドミントン	2年生	前・後	バドミントンは生涯スポーツに適した種目の一つであり、学校体育の中でも盛んに取り入れられている。本授業は、バドミントンの基本的な技術の向上を図り、競技の特性および基本的な攻撃・防御の方法の習得を図る。また、戦術やルールについて理解し、中学や高校における体育授業の実践を念頭に置いた初心者指導について学ぶ。中学及び高校の教員経験を活かし、授業を展開する。	①バドミントンの特性・技術を理解し、説明できる。②サービス、ハイクリアー、スマッシュ、ドライブ、ヘアピンの基本技術を習得する。③練習方法やゲームにおける攻撃・防御の方法を実践できる。④戦術やルール・マナーについて理解し、ゲームを楽しむことができる。⑤一連の技術指導や試合の運営方法を実践できる。	◎	○	○
スポーツ実技科目	ダンス	2年生	前	創作ダンス・フォークダンス・現代的なリズムのダンス学習を通して、自己の内面を表現することや互いの良さを認め合う態度を身につけることに加え、全身を使って精一杯体を動かし、感情と動きの関係性や表現性を理解し、自己表現と他者受容についても学ぶ。また、指導法としての課題の特性の理解や、指導実践における課題への気づきなど、具体的な視点を持ち学習する。	・自らを投じて創る・踊る・観るのノンバーバルコミュニケーションとしてのダンスを知る。・自分自身の身体への気づきやダンスの理解を深める。・将来中学校及び高等学校の保健体育の指導者として、ダンス学習の指導ができるよう、広い視野と価値観を持ち、積極的に取り組む態度と指導法を修得する。	◎	○	○
スポーツ実技科目	剣道	2年生	前・後	日本の代表的な身体運動文化である剣道の特性を理解し、基本的な技能と正しい剣道の学び方や指導法を習得する。身体文化的特性の観点から剣道技術をとらえる着眼点を身につける。中学校の保健体育授業で「剣道」の指導経験のある教員が、現場に即した指導法を教授し、さらに効果的な指導法について学生と学び合うことによって探究する。	「木刀による剣道基本技稽古法」(以下「木刀基本」)や「日本剣道形」を中心に、剣道を正しく学ぶことによって、基本技能を身に付け、指導法、礼法などを体得する。	○	○	◎
スポーツ実技科目	柔道	2年生	前・後	柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」について理解した上で、授業を行う。柔道に必要な基本動作(礼法、姿勢、受け身、進退動作、崩しなど)、投げ技(手技、腰技、足技)、固め技(抑え技)の習得に取り組む。武道必修化に対応できるように、柔道の授業を安全に行うための指導法、審判規定・審判法について解説する。	・柔道の理念である「精力善用」「自他共栄」について理解し説明できる。・礼法、姿勢、受け身、進退動作、崩しなどを理解し、投げ技につなげることができる。・事故・ケガ予防の観点から自在に受け身をとることができる。・投げ技と固め技において安全に自由練習ができる。・教育現場で生かせる安全な指導方法を理解し、実践できる。・審判規定・審判法を理解し審判ができる。	○	◎	○
スポーツ実技科目	レクリエーション実技	3年生	前	様々なレクリエーション活動を実施し、その楽しさを体験することを通じて、コミュニケーションの促進や活動を効果的に展開するための方法、対象に合わせた内容のアレンジ方法などを学習する。こうした学習内容を踏まえて、レクリエーション活動の指導プログラムを立案、実施出来るようになることを目指す。	①レクリエーション活動の楽しさを体験、共有することができる。②レクリエーション活動の基本的な展開方法を習得する。③対象や目的に合わせたレクリエーション活動プログラムを立案・実施することができる。	○	◎	○
スポーツ実技科目	エアロビクダンス	2年生	後	エアロビクエクササイズ(有酸素運動)は生活習慣病の予防・改善に有効であるとされる運動形態であり、その中でもエアロビクダンスは特にトータル的な身体づくりの運動としてこれからはますます重要視されてくる運動形態です。本授業では、現代を取り巻く健康問題をヒトに、その改善対策としての運動の位置付けを理解し、エアロビクダンスの特徴やその有効性、今後の可能性を学んでいきます。エアロビクダンスの良さを体感しながら、音楽を活用したエクササイズの指導ができるようになるための技能を習得していきます。	①エアロビクダンスの基本となる動作を習得し、正しく動くことができる。②身ぶり・手振り・声かけなど指導者として必要とされる指導技能を習得する。③エアロビクダンスの楽しさを知ることができる。④エアロビクダンススペーシクインストラクター(ADBI)資格取得に向けたスキルを身につけることができる。	◎	○	○